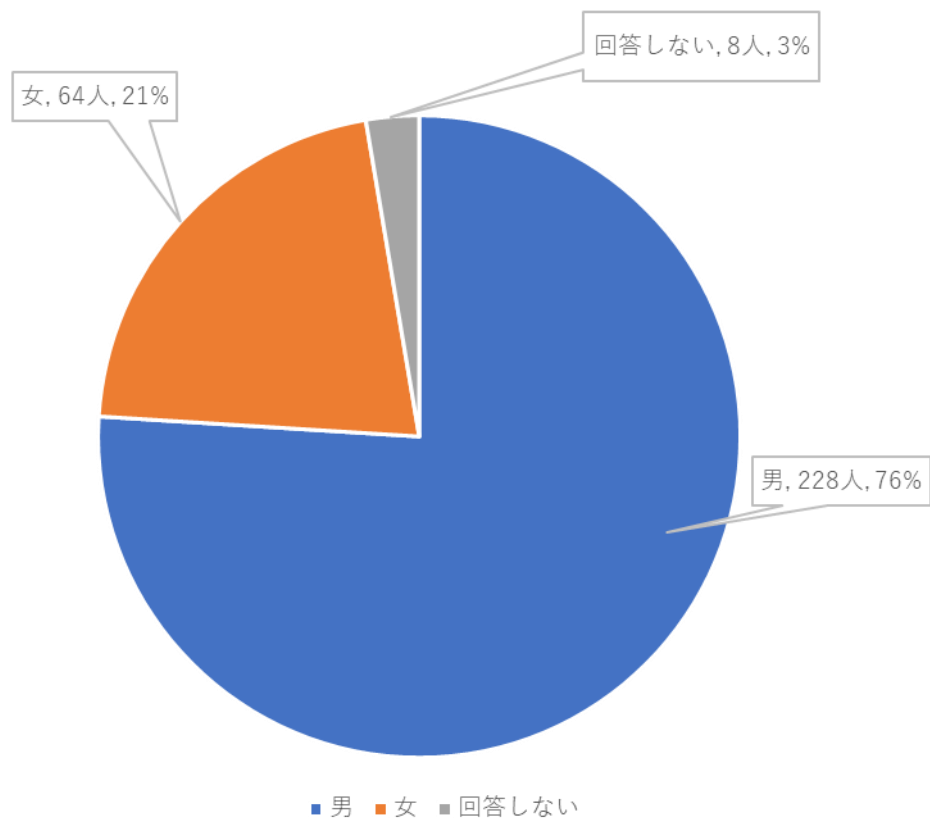


美濃加茂市防災訓練アンケート全地区集計結果

アンケート回答者の性別別



参加者総数

一 次 訓 練 : 6,379人

二 次 訓 練 : 971人

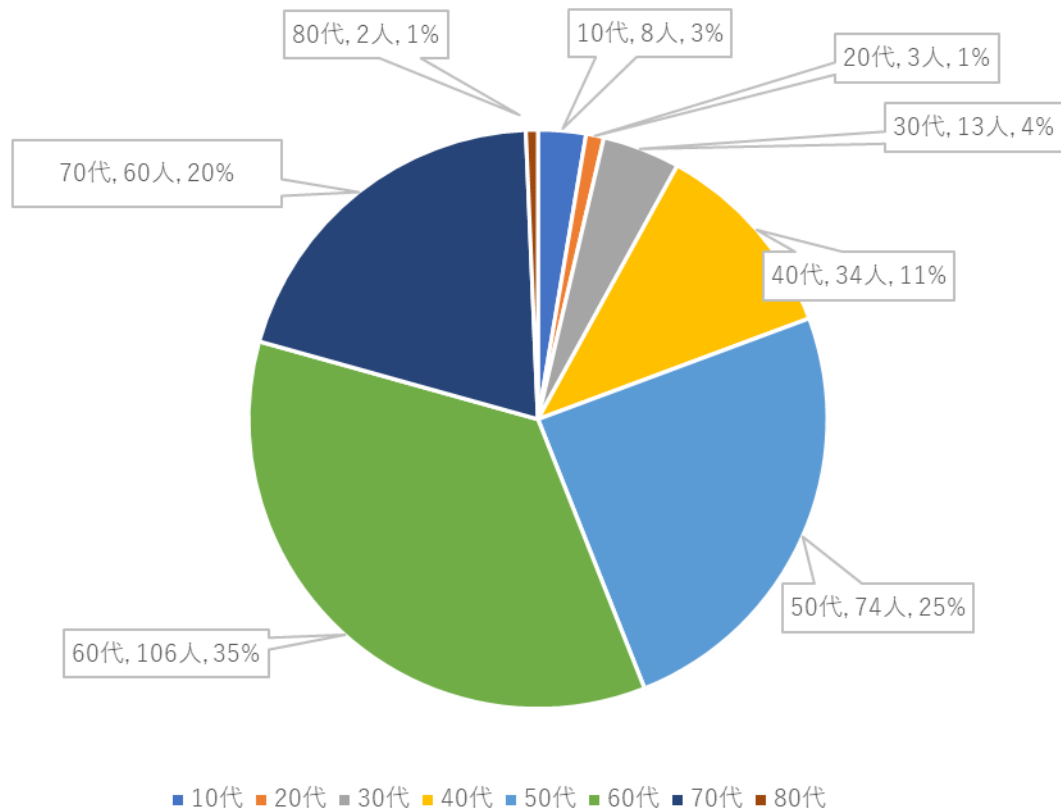
アンケート回答者総数 : 300人

●性別別の回答人数は、「男性」228人、「女性」64人、「回答しない」8人となっています。

●アンケート回答者の76%が「男性」となっています。

美濃加茂市防災訓練アンケート全地区集計結果

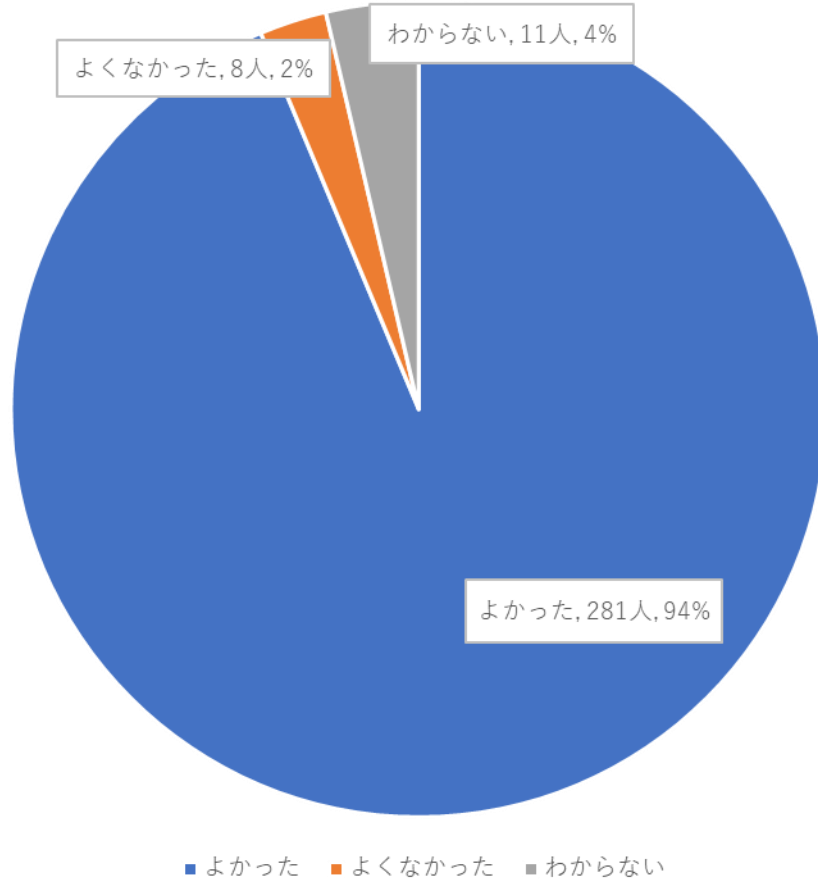
アンケート回答者の年齢別



- 年齢別の回答人数は、多い順に60歳代106人、50歳代74人、70歳代60人、40歳代34人、30歳代13人、10歳代8人、20歳代3人、80歳代2人の順となっています。
- アンケート回答者の60%を50歳代と60歳代が占めています。

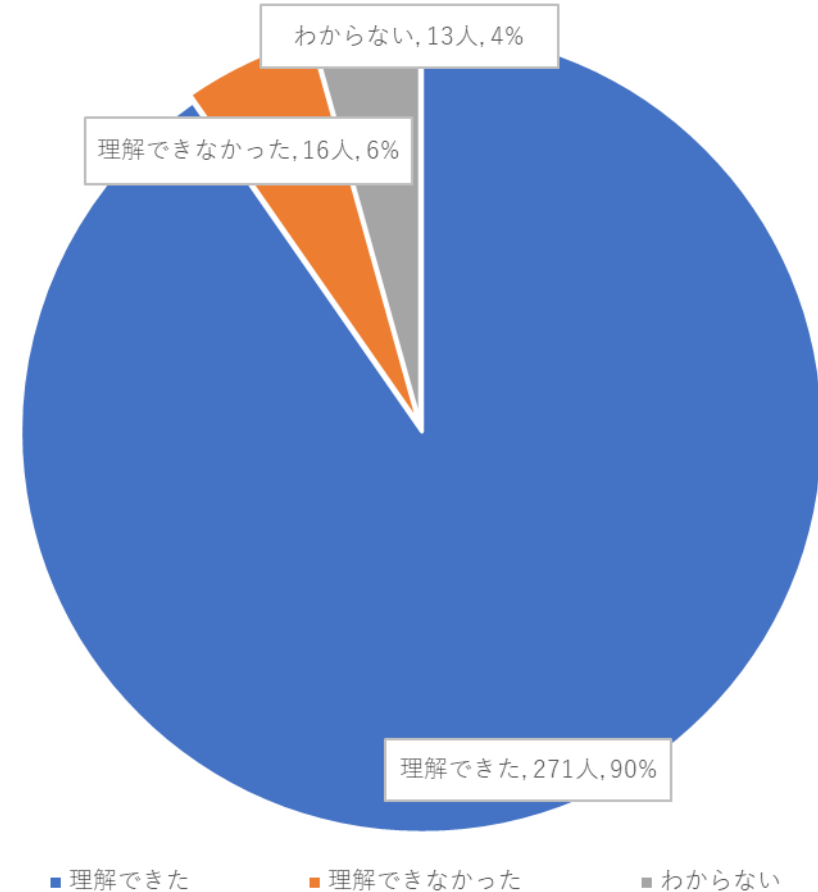
美濃加茂市防災訓練アンケート全地区集計結果

本日の訓練について



● アンケート回答者の94%が「よかった」（281人）と回答されました。

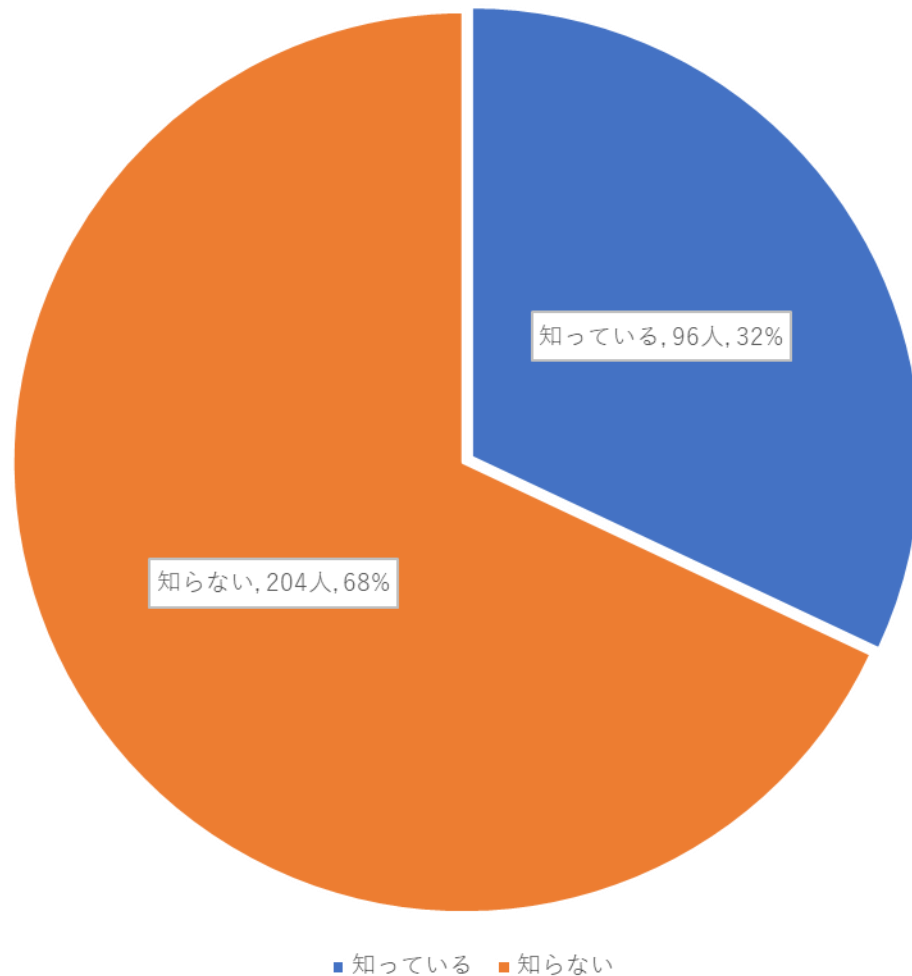
DVD「発災後の生活環境を考える」について



● レスキューストックヤード常務理事の浦野愛氏によるDVD「発災後の生活環境を考える」については、アンケート回答者の90%が「理解できた」（271人）と回答されました。

美濃加茂市防災訓練アンケート全地区集計結果

市公式LINEにて体験できる「デジタル避難訓練」を知っていますか。

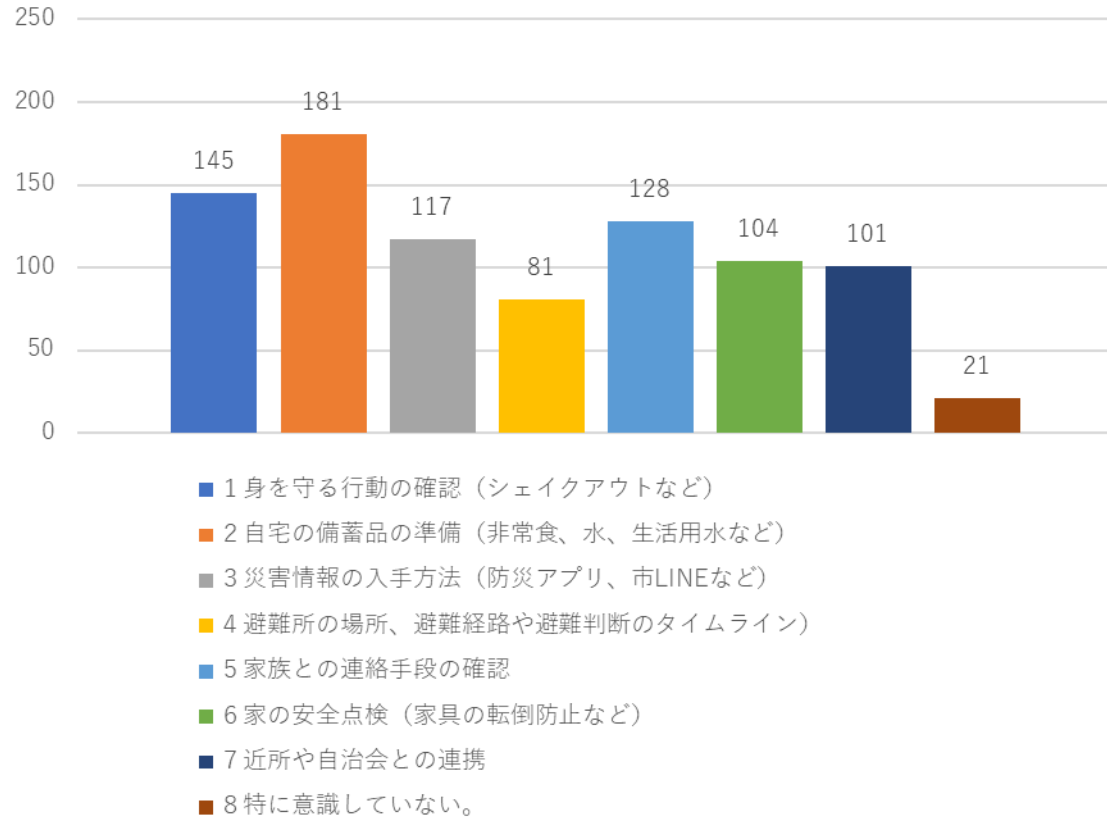


●アンケート回答者の68%が「知らない」（204人）と回答されました。

※「デジタル避難訓練」とは、LINEの画面上で地震発生時にとるべき防災行動や情報収集の仕方を学べる避難体験コンテンツです。

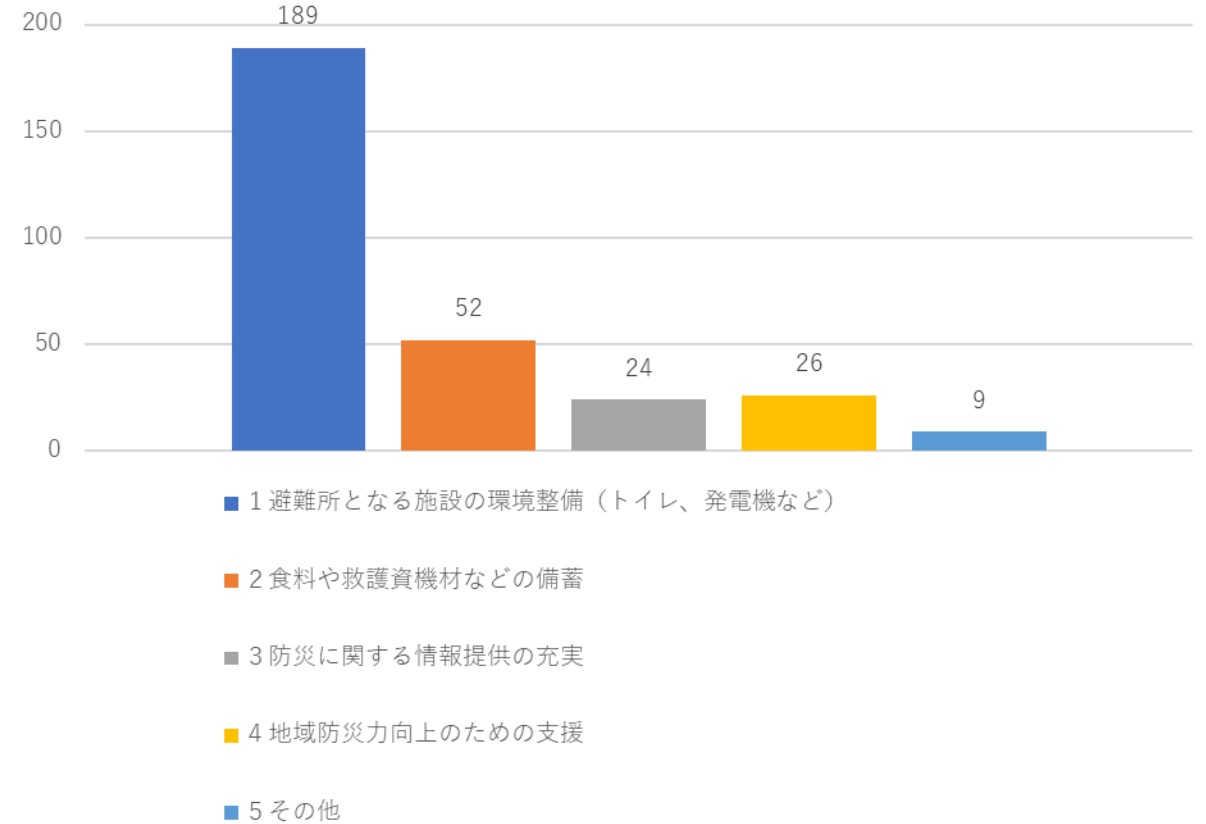
美濃加茂市防災訓練アンケート全地区集計結果

災害に備えて、普段から意識していることは何ですか？（複数回答可）



●多くの人が災害の備えとして「自宅の備蓄品の準備」（181人）を最も重視しており、次いで「身を守る行動の確認」（145人）や「家族との連絡手段の確認」（128人）が挙げられました。
全般的に、個人や家庭でできる具体的な対策が重視される傾向が見受けられます。

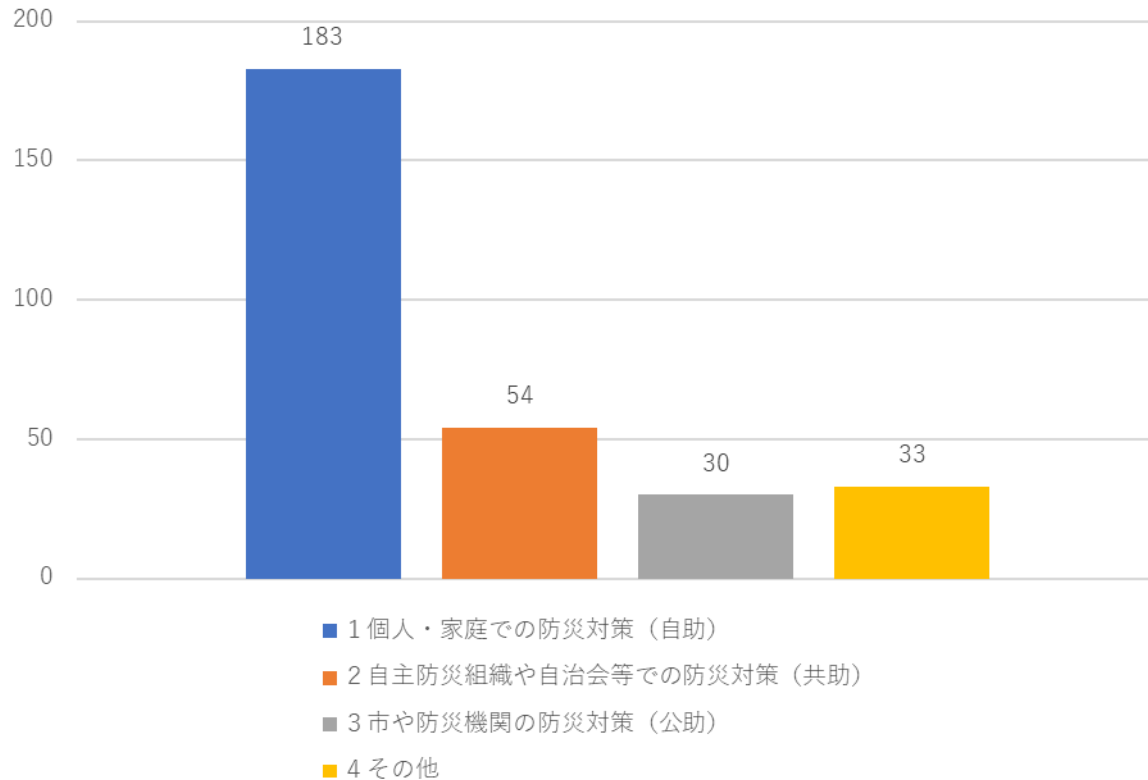
防災に関して市に力を入れて取り組んで欲しいことは何ですか？



●アンケート結果では、「避難所となる施設の環境整備」（189人）が最も多く選ばれ、「食料や救護資機材などの備蓄」（52人）が次に続きました。「地域防災力向上のための支援」（26人）と「防災に関する情報提供の充実」（24人）は比較的少数でした。
避難所環境整備が最優先課題であることが示されています。

美濃加茂市防災訓練アンケート全地区集計結果

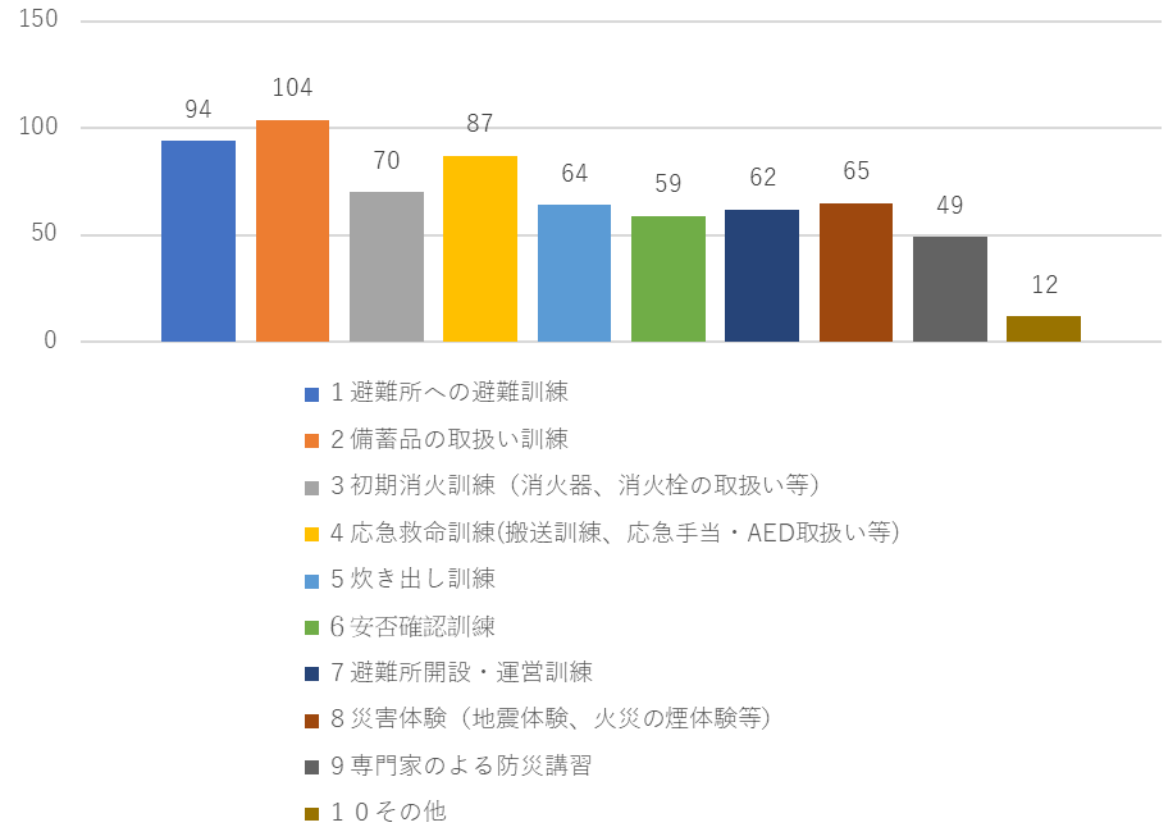
防災意識を高めるために、今後最も力を入れるべきことは何だと思いますか？



●アンケート結果によると、「個人・家庭での防災対策（自助）」（183人）が最も支持されました。一方、「自主防災組織や自治会等での防災対策（共助）」は中程度の支持（54人）、「その他」（33人）及び「市や防災機関の防災対策（公助）」（30人）という回答は少数派にとどまりました。

全般的に「自助」の関心が特に高い傾向が見られます。

今後実施したい訓練は何ですか？（複数回答可）



●今後、実施を希望する訓練で最も関心が高いのは「備蓄品の取扱い訓練」（104人）で、次いで「避難所への避難訓練」（94人）と「応急救命訓練」（87人）が続いています。また、「初期消火訓練」（70人）や「災害体験」（65人）への関心も見られました。

美濃加茂市防災訓練アンケート全地区集計結果

【自由意見】※一部抜粋

- ・とても有意義な訓練だった。勉強になった。
- ・訓練は繰り返し実施することが大切。多くの方に参加してほしい。
- ・災害時の高齢者等への対応を考えなければいけない。
- ・各地区や自治会単位で特化した防災マニュアルの作成と情報共有が必要。
- ・自助の重要性について継続的な周知が必要。
- ・防災訓練での動画視聴環境の改善をしてほしい（スクリーンを用意し、音声割れを防止するなど）。
- ・動画視聴よりも、地震体験車や土のう訓練、水出し訓練など体験型の訓練を増やしてほしい。
- ・火災への対応として、各家庭に消火器（カセット消火器を含む）を設置し、補助金制度を導入すべき。
- ・消火栓や試し放水を含む実践的な訓練を強化してほしい。
- ・防災へりの中止は残念だった。
- ・避難所にはエアコンの設置が必要です。
- ・若い世代や外国人、小中学生への参加を促進してほしい。
- ・非自治会員の参加を呼びかける必要がある。
- ・訓練を通じて住民間の顔を合わせる場としての意義を大切にし、継続して開催してほしい。
- ・人口増加や生活様式の変化に伴い、避難所利用者のルールや対応（犬の同行避難など）を整備すべき。
- ・開会等の挨拶は簡素化し、訓練の進行をスムーズに行うべき。
- ・防災訓練の時間帯や季節を変更して実施すると効果的ではないか。
- ・市民側で訓練運営を行うことで、自助、共助の意識を育む機会を設けるべき。
- ・避難所での安否確認手段として市役所LINEや衛星通信などの多様な手段を導入すべき。
- ・消防団や市職員、準備に携わった関係者の皆様、ありがとうございました。
- ・防災意識が薄い地域との格差を減らす取り組みが必要。
- ・水害リスクへの対応、インフラ整備（例: ポンプ施設の点検）を徹底してほしい。

太田地区

参加者総数

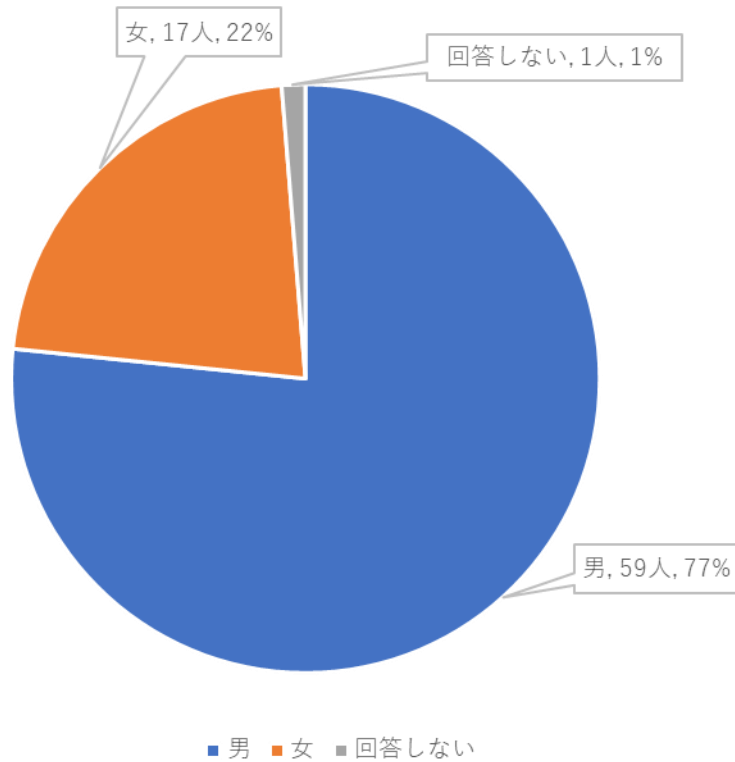
一 次 訓 練：1,177人

二 次 訓 練： 116人

アンケート回答者総数： 77人

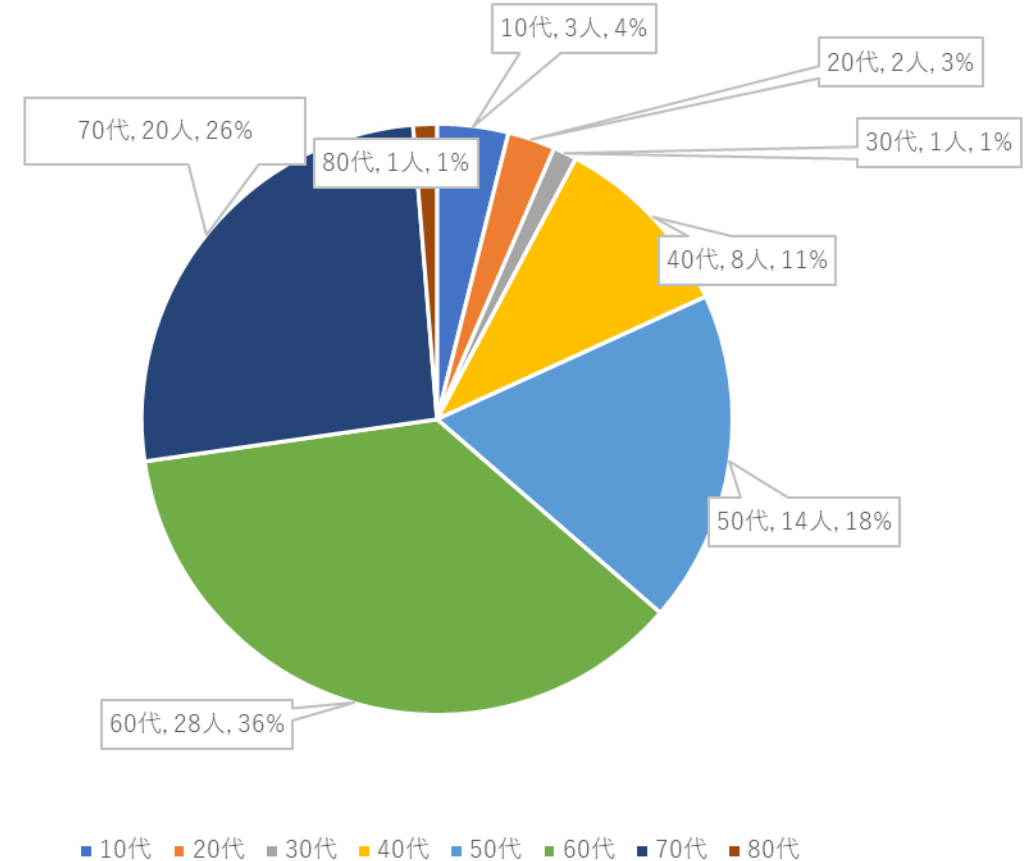
太田地区防災訓練アンケート集計結果

アンケート回答者の性別別



●性別別の回答人数は、「男性」59人、「女性」17人、「回答しない」1人となっています。

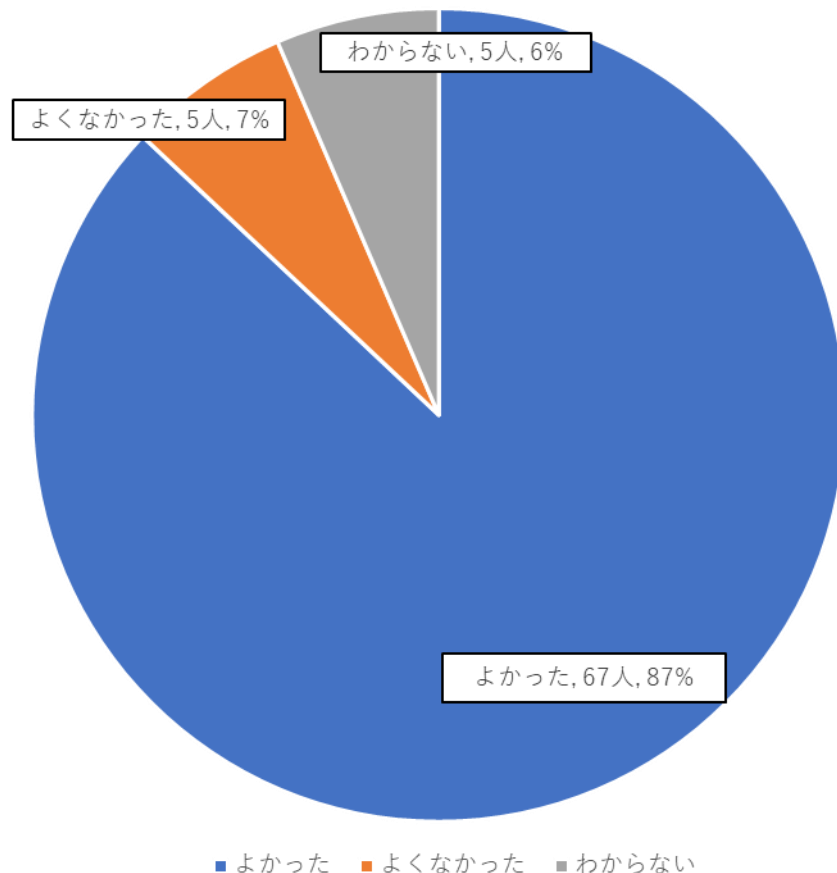
アンケート回答者の年齢別



●年齢別の回答人数は、多い順に60歳代28人、70歳代20人、50歳代14人、40歳代8人、10歳代3人、20歳代2人、30歳代・80歳代各1人の順となっています。

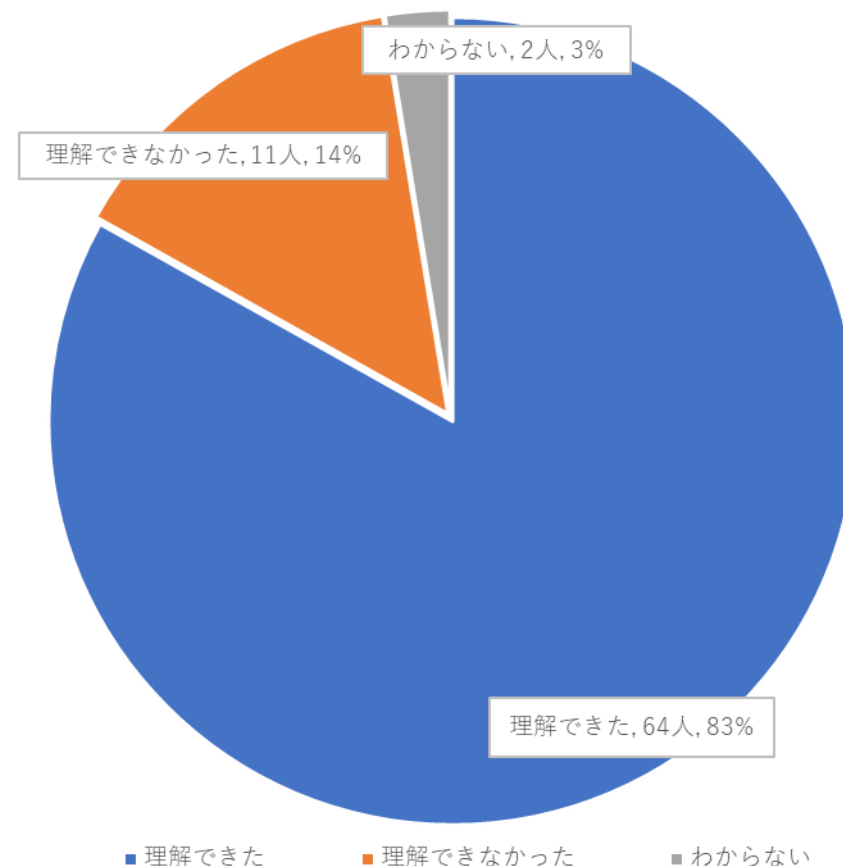
太田地区防災訓練アンケート集計結果

本日の訓練について



● アンケート回答者の87%（67人）が「よかった」と回答されました。

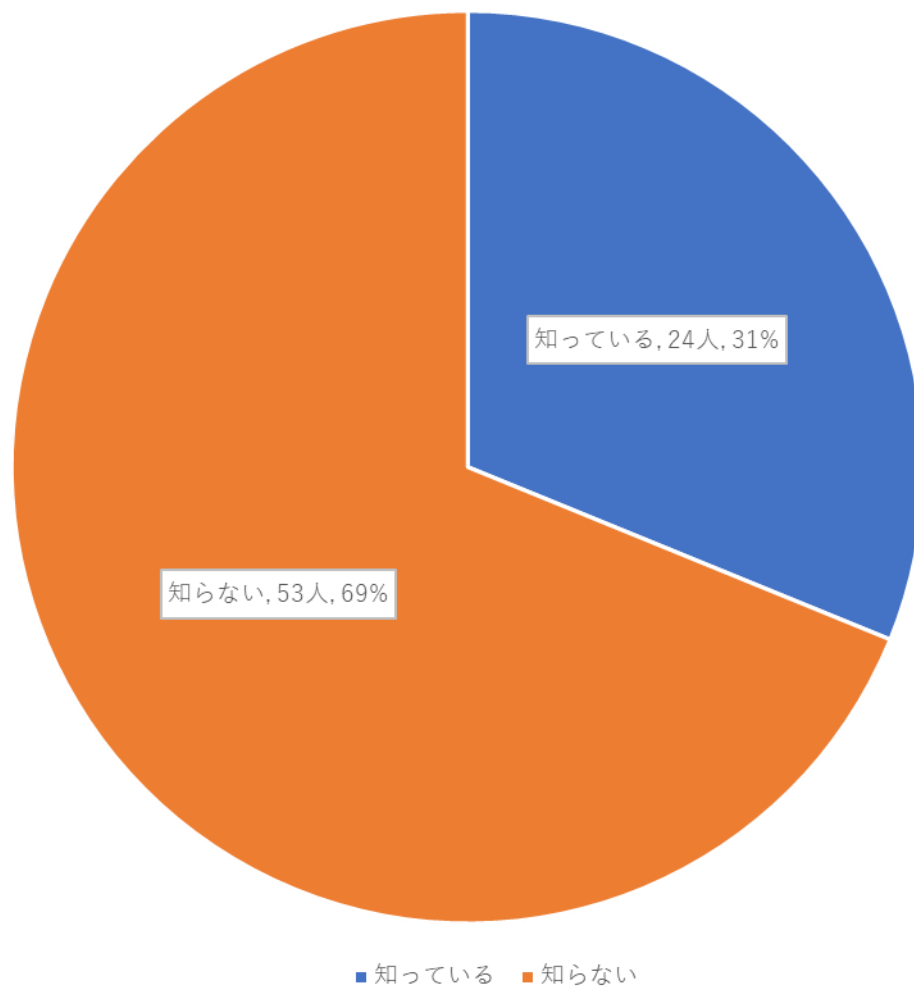
DVD「発災後の生活環境を考える」について



● レスキューストックヤード常務理事の浦野愛氏によるDVD「発災後の生活環境を考える」については、アンケート回答者の83%が「理解できた」（64人）と回答されました。

太田地区防災訓練アンケート集計結果

市公式LINEにて体験できる「デジタル避難訓練」を知っていますか。

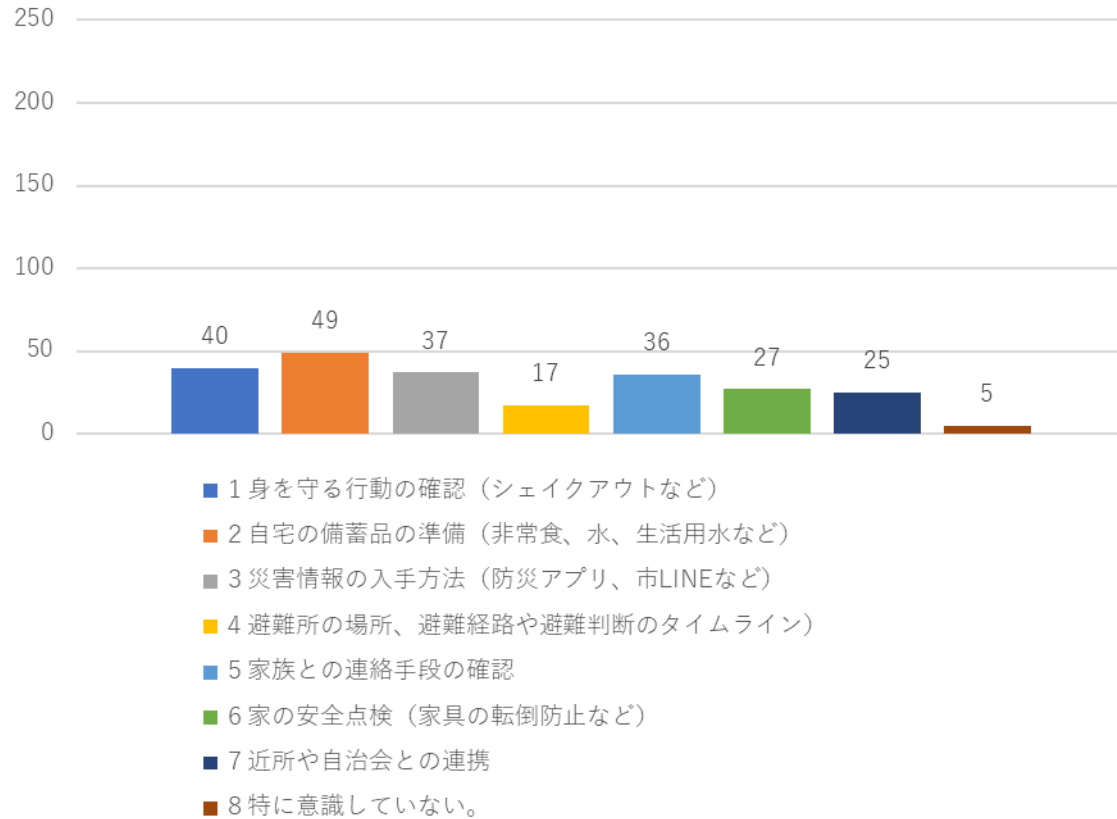


●アンケート回答者の69%が「知らない」（53人）と回答されました。

※「デジタル避難訓練」とは、LINEの画面上で地震発生時にとるべき防災行動や情報収集の仕方を学べる避難体験コンテンツです。

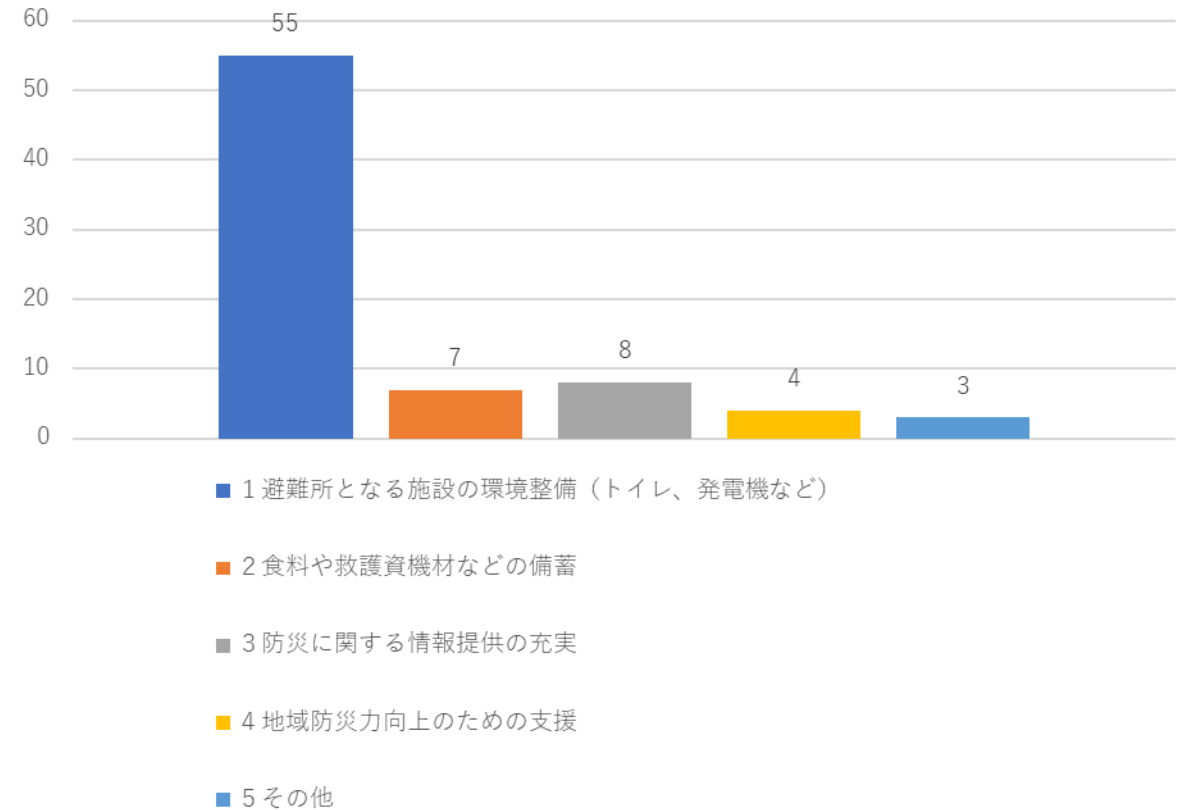
太田地区防災訓練アンケート集計結果

災害に備えて、普段から意識していることは何ですか？（複数回答可）



●災害に備えて「自宅の備蓄品の準備」（49人）や「身を守る行動の確認」（40人）が意識されている項目となりました。「災害情報の入手方法」（37人）や「家族との連絡手段の確認」（36人）も比較的重視されています。

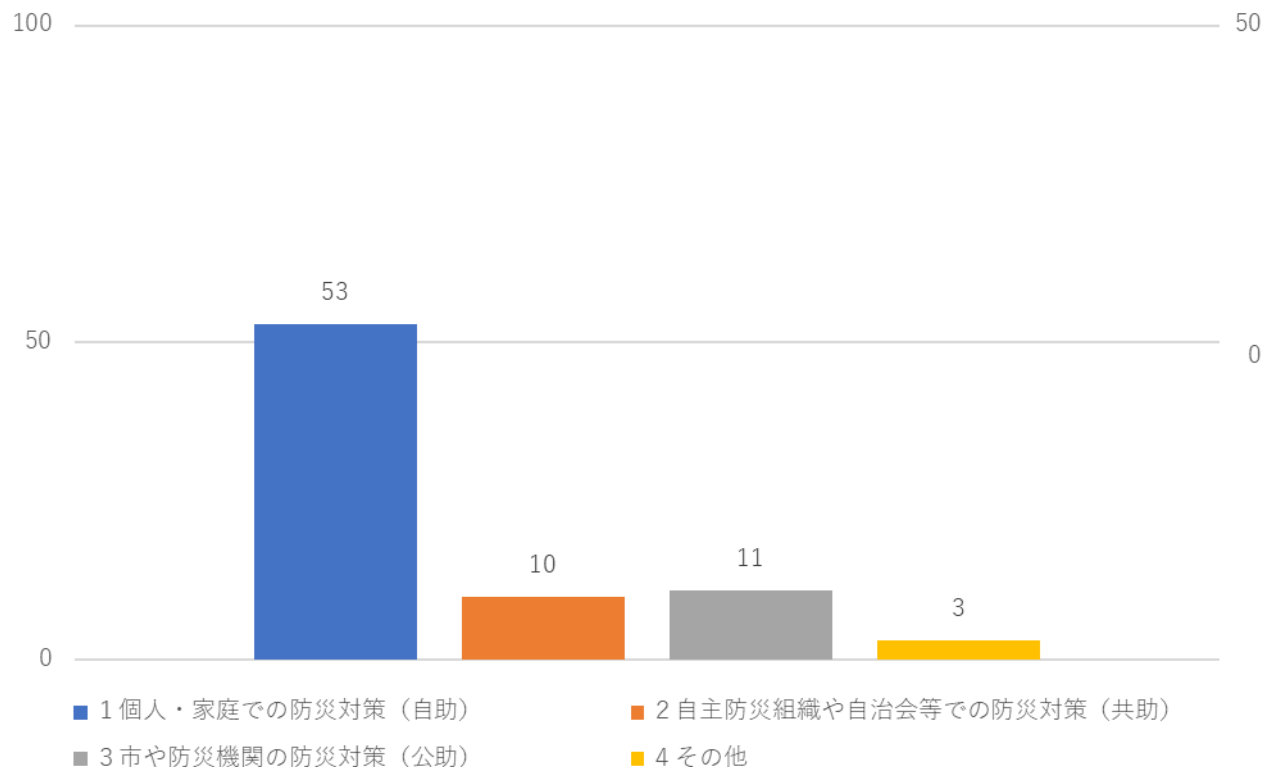
防災に関して市に力を入れて取り組んで欲しいことは何ですか？



●アンケート結果では、「避難所となる施設の環境整備」（55人）が最も多く選ばれ、「防災に関する情報提供の充実」（8人）、「食料や救護資機材などの備蓄」（7人）が次に続きました。

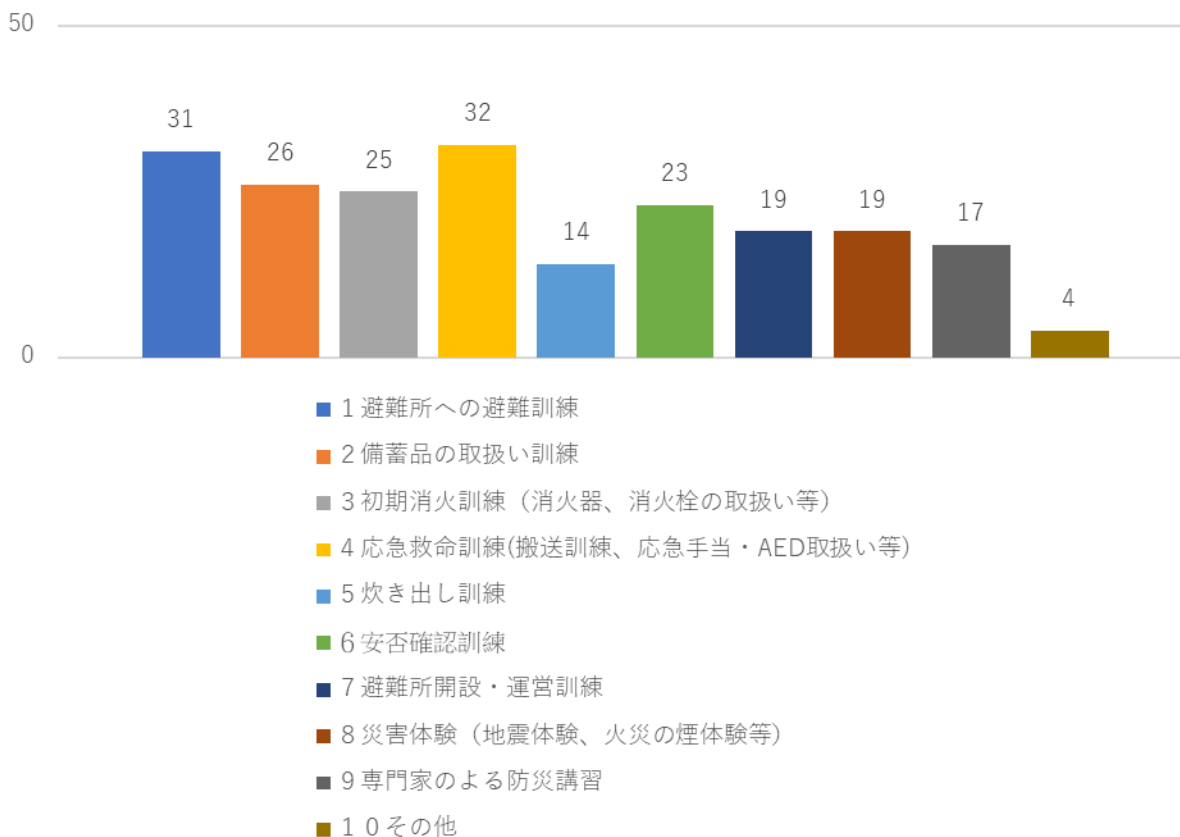
太田地区防災訓練アンケート集計結果

防災意識を高めるために、今後最も力を入れるべきことは何だと思いますか？



●アンケート結果によると、「個人・家庭での防災対策（自助）」（53人）が最も支持されました。次いで「市や防災機関の防災対策（公助）」（11人）、「自主防災組織や自治会等での防災対策（共助）」（10人）となっています。

今後実施したい訓練は何ですか？（複数回答可）



●今後、実施を希望する訓練で最も関心が高いのは「応急救命訓練」（32人）で、次いで「避難所への避難訓練」（31人）となっています。また、「備蓄品の取扱い訓練」（26人）や「初期消火訓練」（25人）への関心も見られました。

古井地区

参加者総数

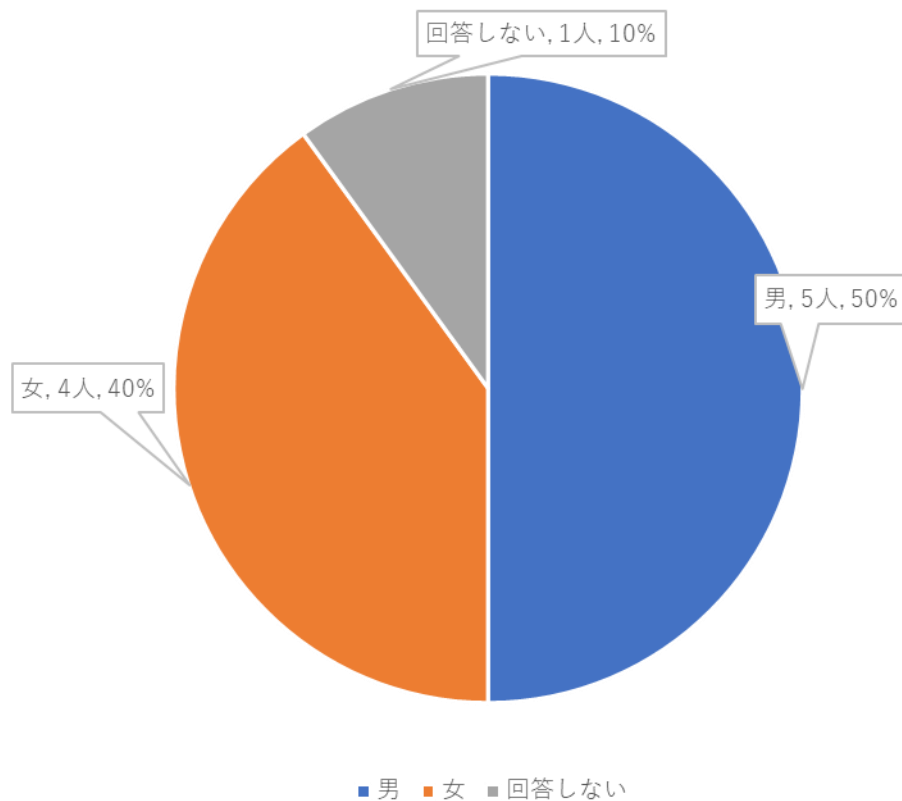
一 次 訓 練：2,565人

二 次 訓 練： 155人

アンケート回答者総数： 10人

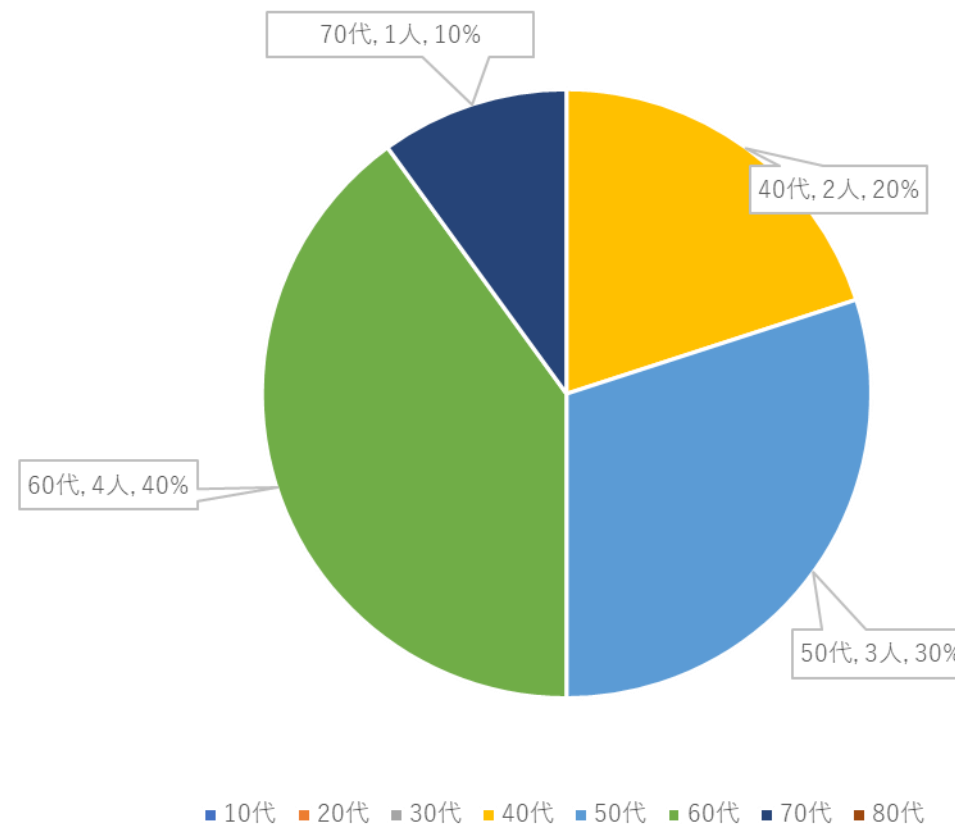
古井地区防災訓練アンケート集計結果

アンケート回答者の性別別



●性別別の回答人数は、「男性」5人、「女性」4人、「回答しない」1人となっています。

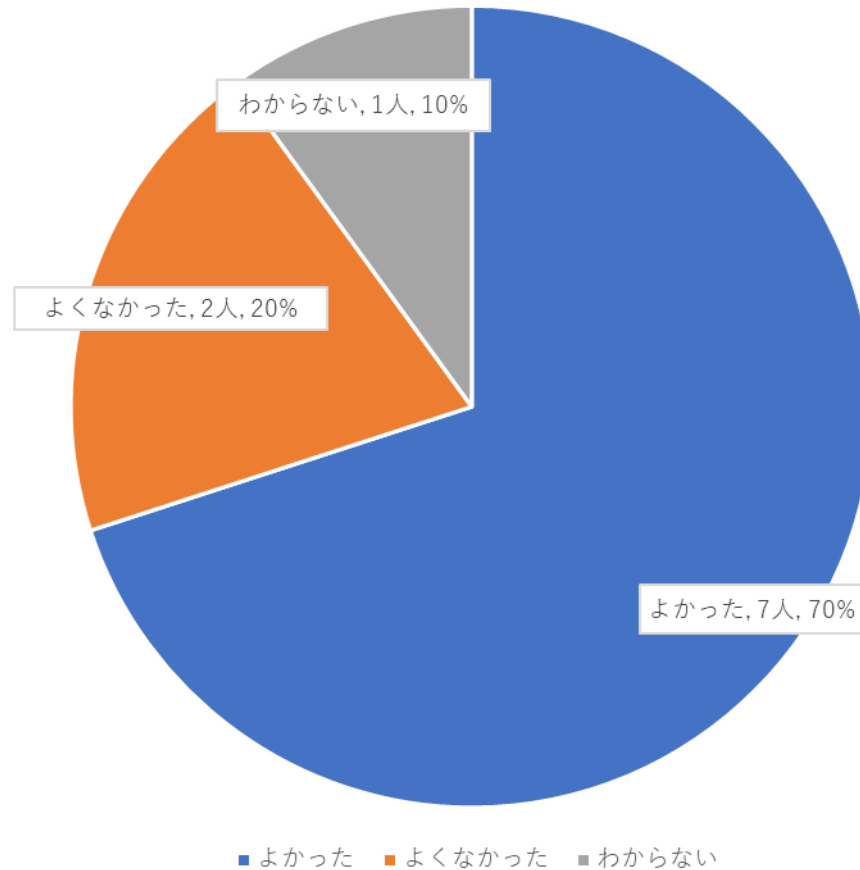
アンケート回答者の年齢別



●年齢別の回答人数は、多い順に60歳代4人、50歳代3人、40歳代2人、70歳代1人の順となっています。

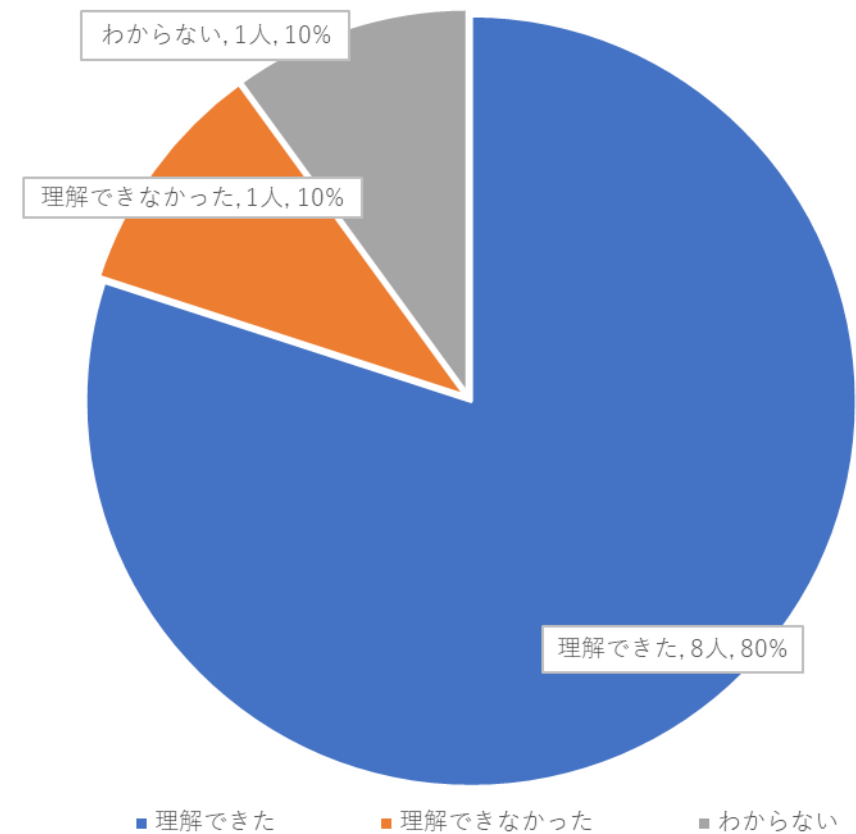
古井地区防災訓練アンケート集計結果

本日の訓練について



● アンケート回答者の70%が「よかった」（7人）と回答されました。

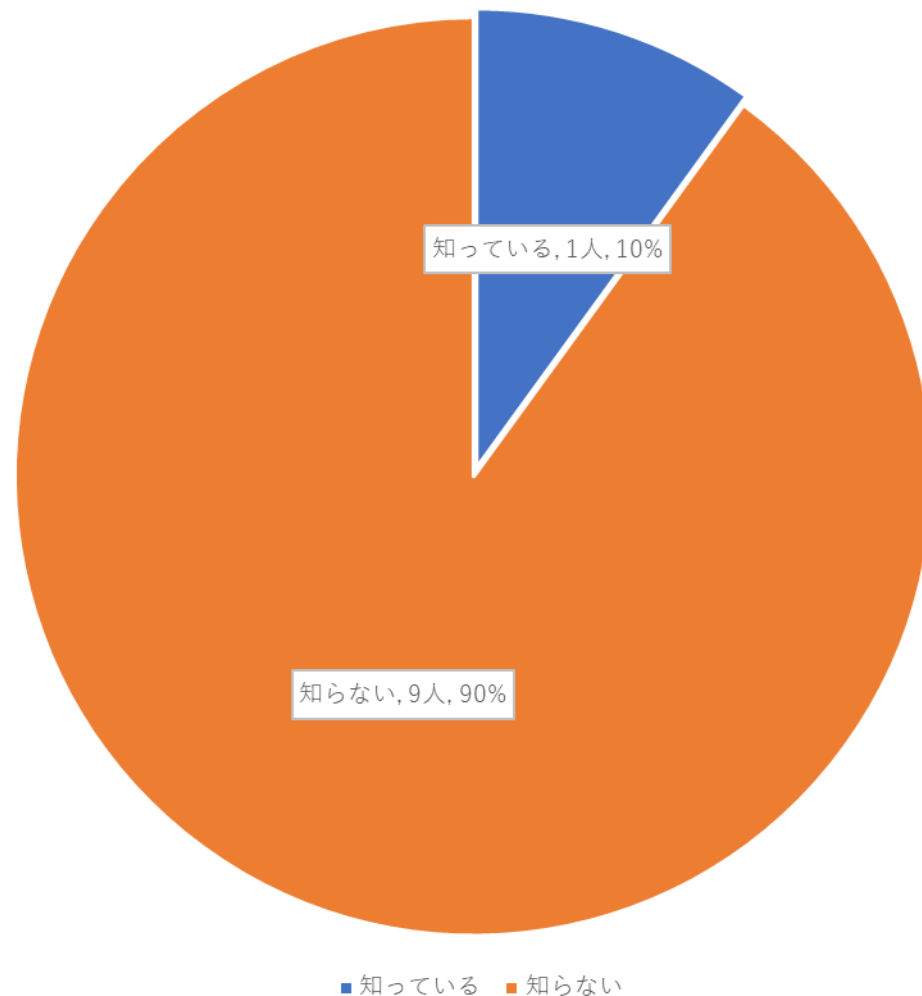
DVD「発災後の生活環境を考える」について



● レスキューストックヤード常務理事の浦野愛氏によるDVD「発災後の生活環境を考える」については、アンケート回答者の80%が「理解できた」（8人）と回答されました。

古井地区防災訓練アンケート集計結果

市公式LINEにて体験できる「デジタル避難訓練」を知っていますか。

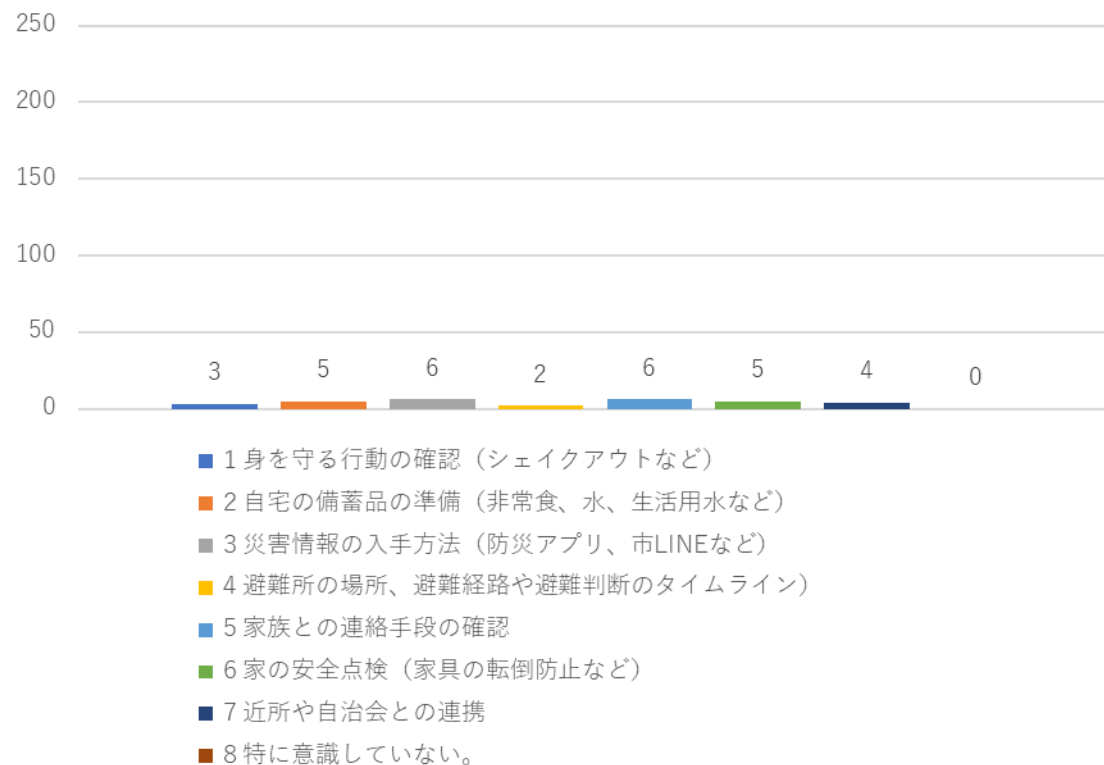


●アンケート回答者の90%が「知らない」（9人）と回答されました。

※「デジタル避難訓練」とは、LINEの画面上で地震発生時にとるべき防災行動や情報収集の仕方を学べる避難体験コンテンツです。

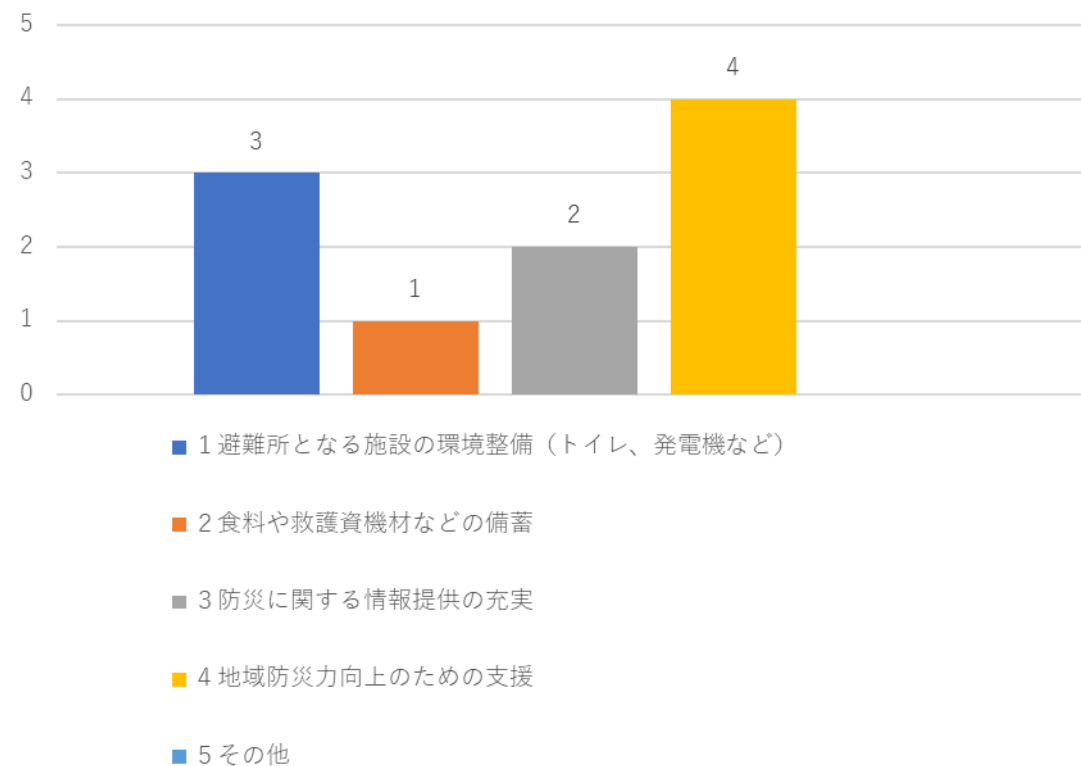
古井地区防災訓練アンケート集計結果

災害に備えて、普段から意識していることは何ですか？（複数回答可）



●災害に備えて「災害情報の入手方法」と「家族との連絡手段の確認」（各6人）が最も意識されている項目となりました。次いで「自宅の備蓄品の準備」と「家の安全点検」（各5人）が重視されています。

防災に関して市に力を入れて取り組んで欲しいことは何ですか？

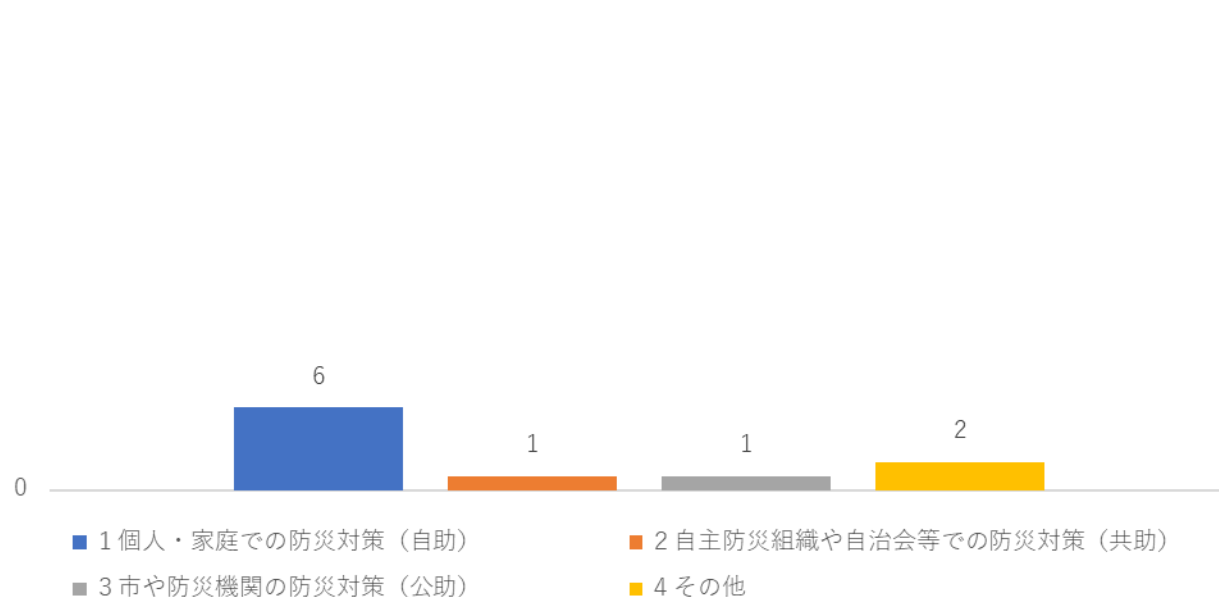


●アンケート結果では、「地域防災力向上のための支援」（4人）が最も多く選ばれ、「避難所となる施設的环境整備」（3人）、「防災に関する情報提供の充実」（2人）が次に続きました。

古井地区防災訓練アンケート集計結果

防災意識を高めるために、今後最も力を入れるべきことは何だと思いますか？

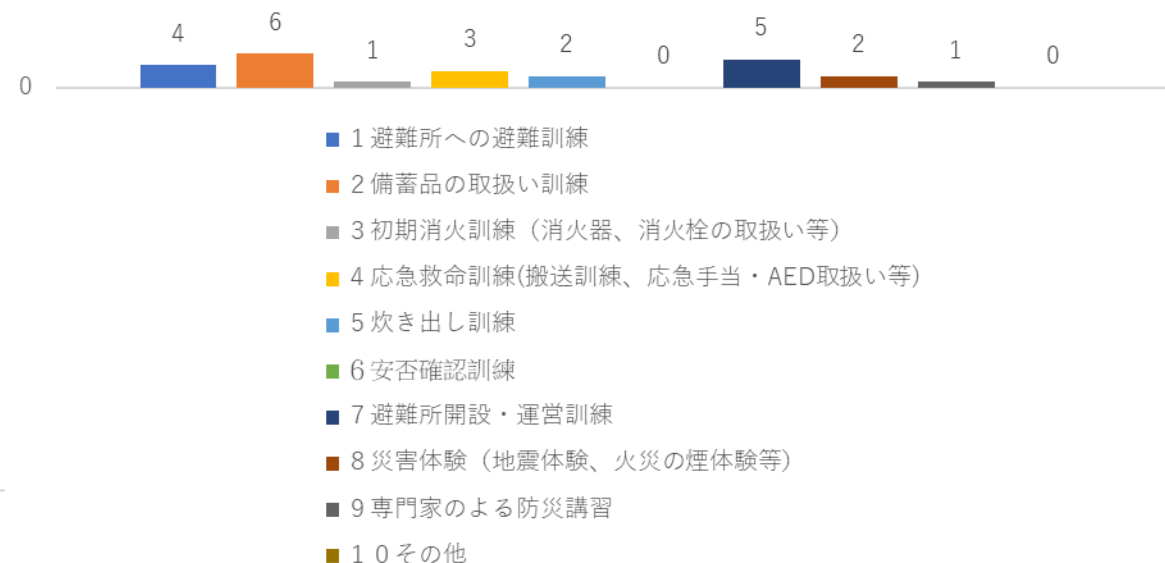
50



●アンケート結果によると、「個人・家庭での防災対策（自助）」（6人）が最も支持されました。

今後実施したい訓練は何ですか？（複数回答可）

50



●今後、実施を希望する訓練で最も関心が高いのは、「備蓄品の取扱い訓練」（6人）で、次いで「避難所開設・運営訓練」（5人）となっています。

山之上地区

参加者総数

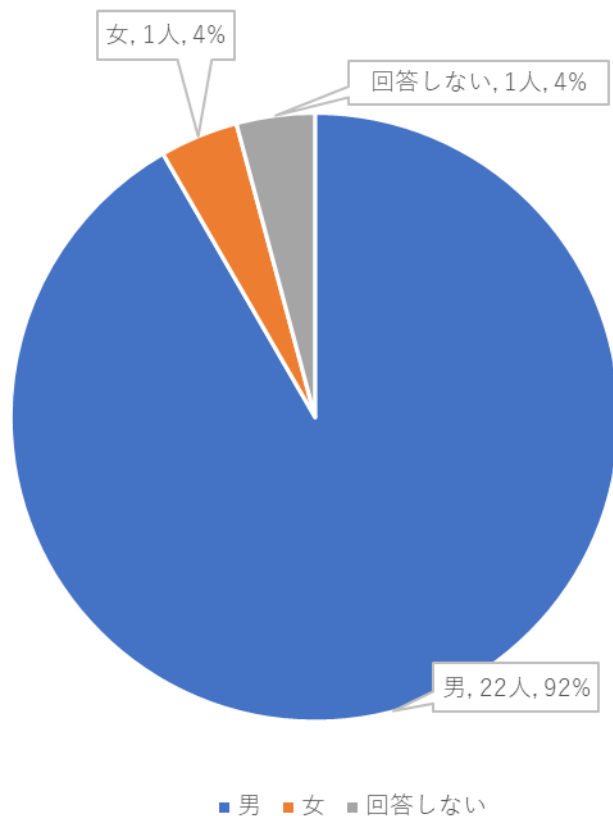
一 次 訓 練：398人

二 次 訓 練：45人

アンケート回答者総数：24人

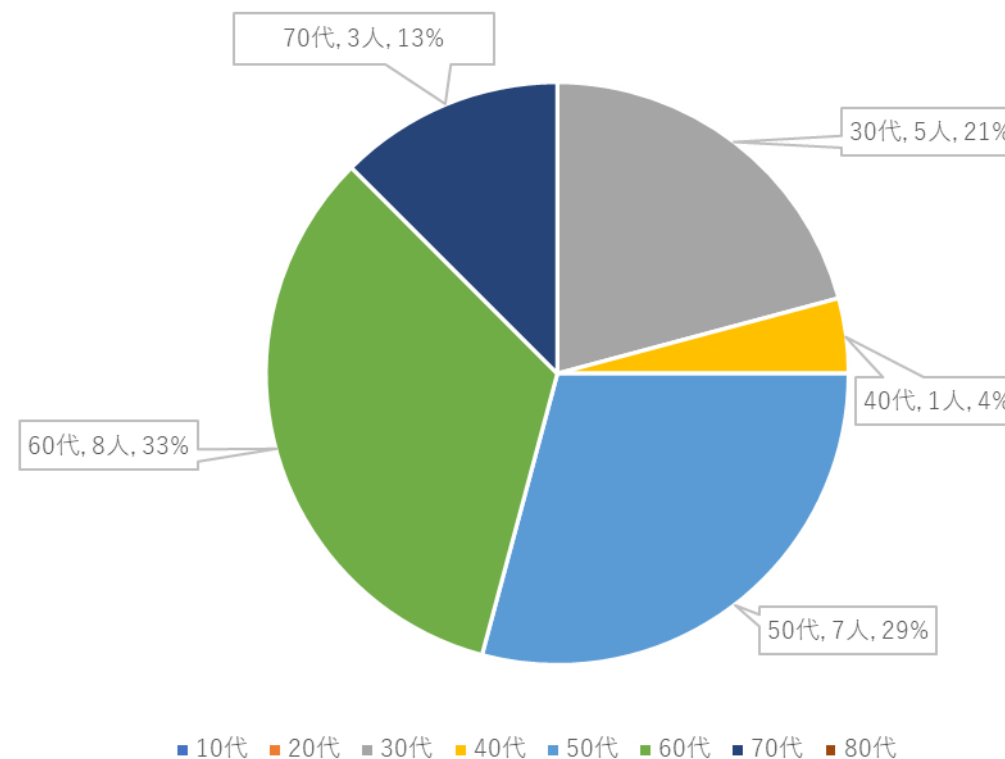
山之上地区防災訓練アンケート集計結果

アンケート回答者の性別別



●性別別の回答人数は、「男性」22人、「女性」1人、「回答しない」1人となっています。

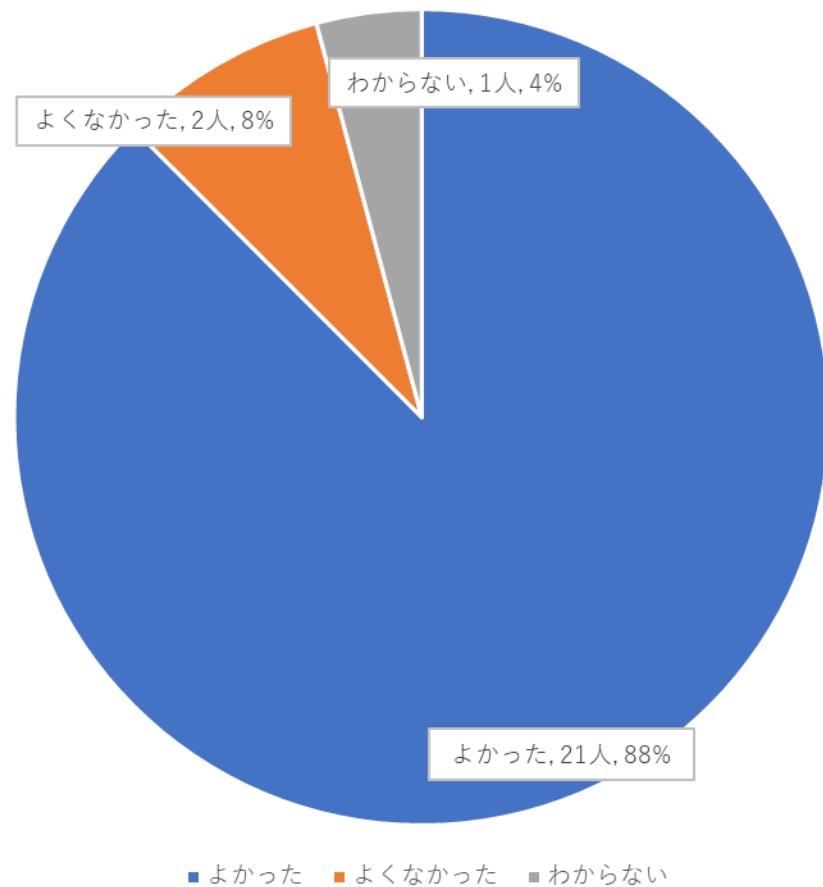
アンケート回答者の年齢別



●年齢別の回答人数は多い順に60歳代8人、50歳代7人、30歳代5人、70歳代3人、40歳代1人の順となっています。

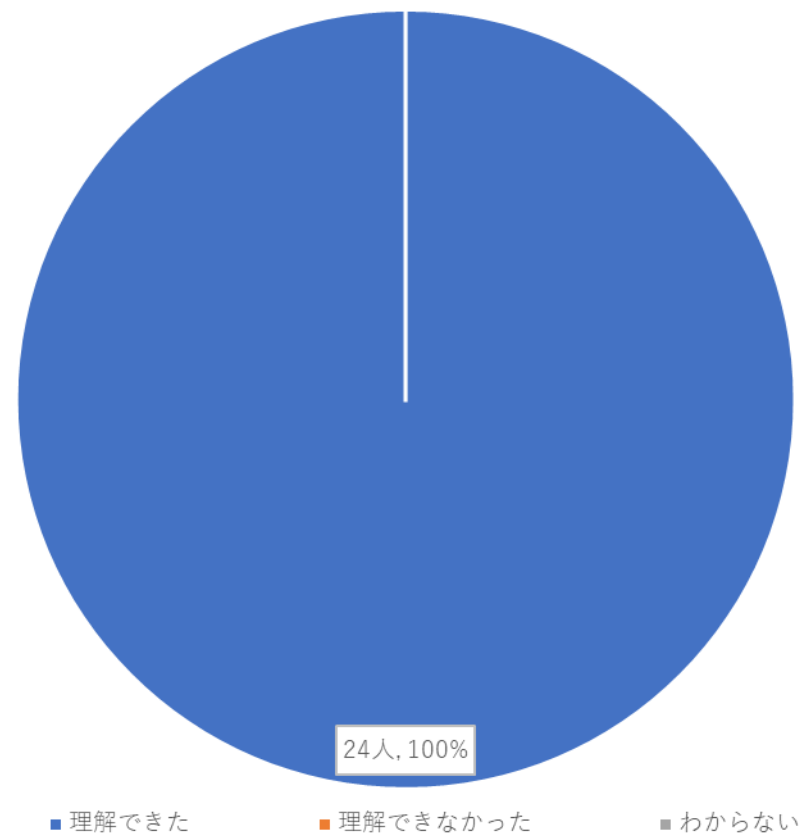
山之上地区防災訓練アンケート集計結果

本日の訓練について



● アンケート回答者の88%が「よかった」（21人）と回答されました。

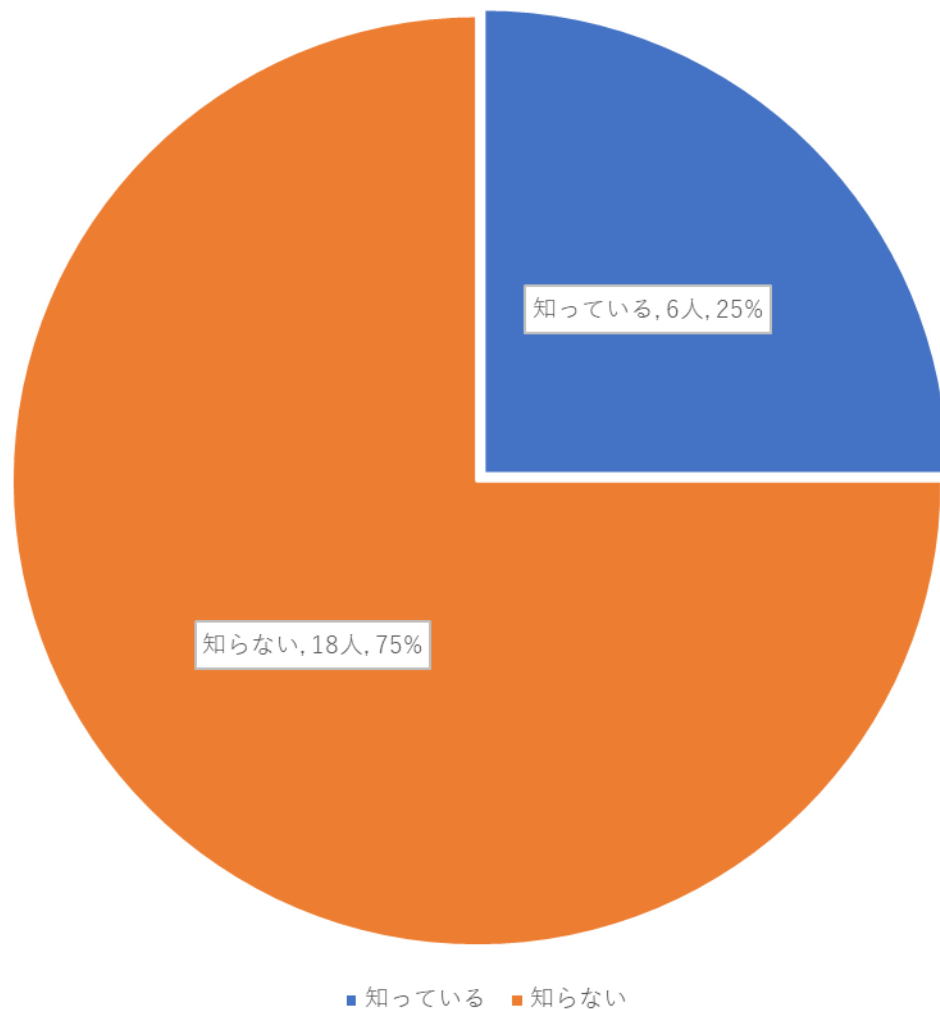
DVD「発災後の生活環境を考える」について



● レスキューストックヤード常務理事の浦野愛氏によるDVD「発災後の生活環境を考える」については、全回答者が「理解できた」（24人）と回答されました。

山之上地区防災訓練アンケート集計結果

市公式LINEにて体験できる「デジタル避難訓練」を知っていますか。

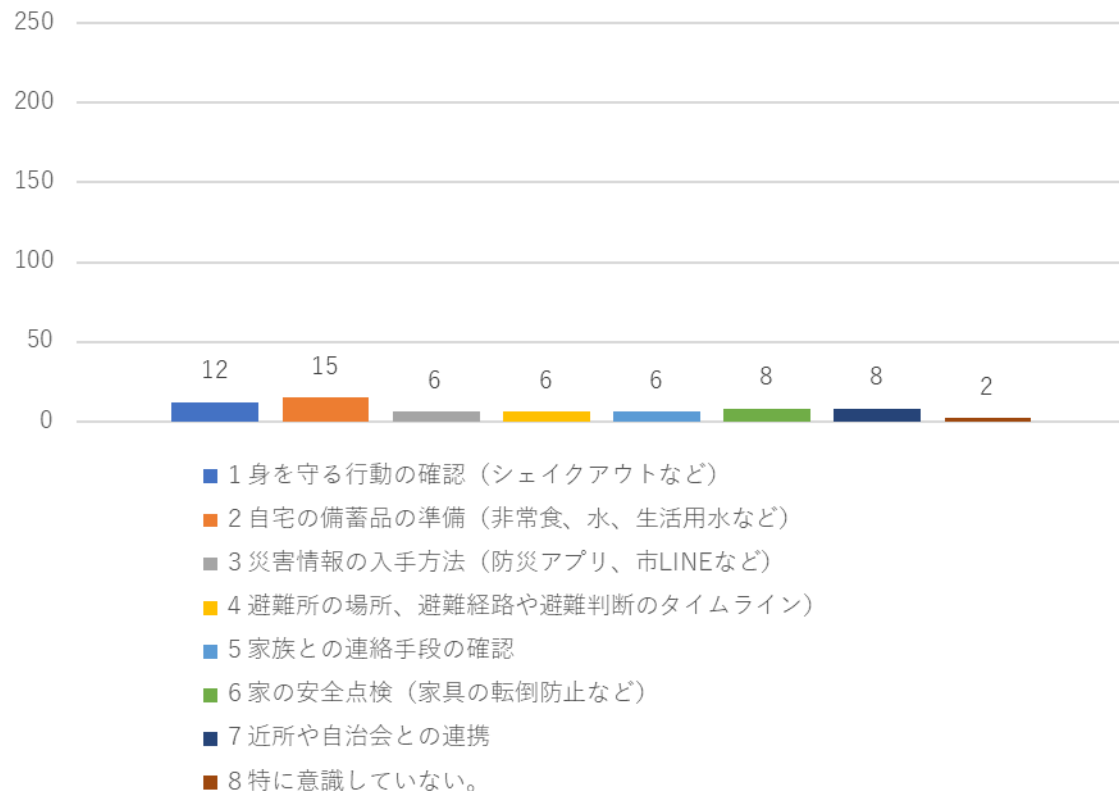


●アンケート回答者の75%が「知らない」（18人）と回答されました。

※「デジタル避難訓練」とは、LINEの画面上で地震発生時にとるべき防災行動や情報収集の仕方を学べる避難体験コンテンツです。

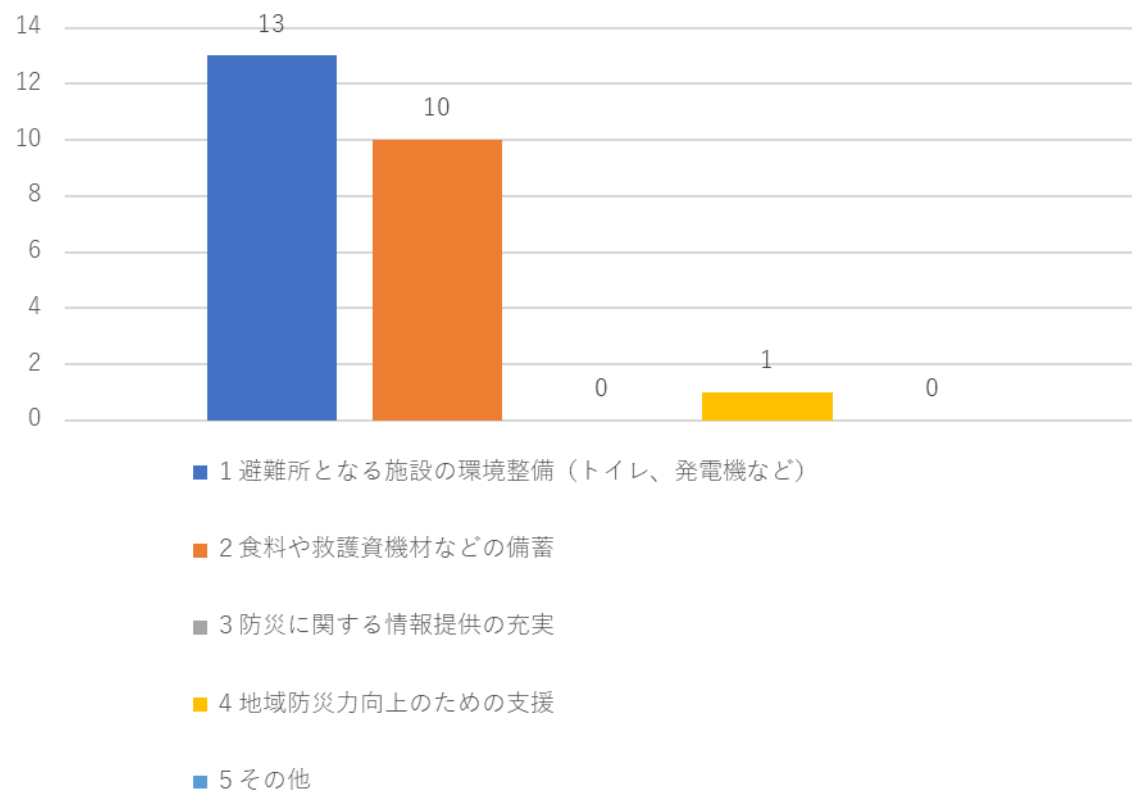
山之上地区防災訓練アンケート集計結果

災害に備えて、普段から意識していることは何ですか？（複数回答可）



●災害に備えて「自宅の備蓄品の準備」（15人）が最も意識されている項目となりました。次いで「身を守る行動の確認」（12人）が重視されており、「家の安全点検」・「近所や自治会との連携」（各8人）が続きました。

防災に関して市に力を入れて取り組んで欲しいことは何ですか？

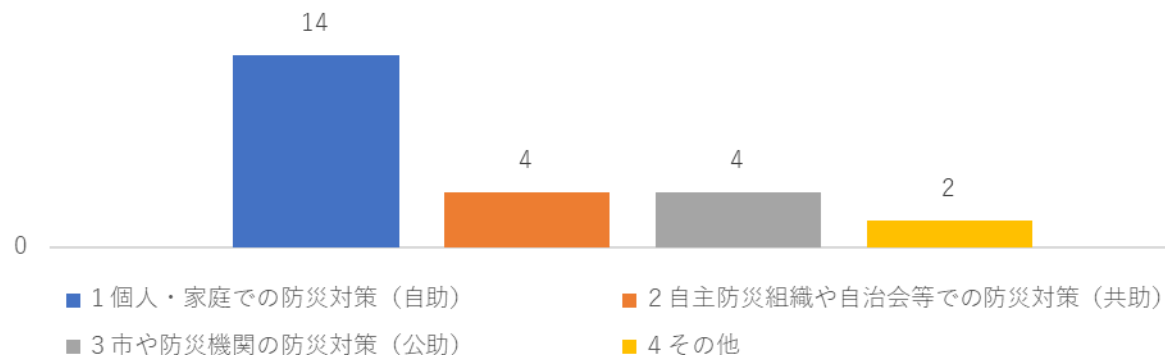


●アンケート結果では、「避難所となる施設の環境整備」（13人）が最も多く選ばれ、「食料や救護資機材などの備蓄」（10人）が次に続きました。

山之上地区防災訓練アンケート集計結果

防災意識を高めるために、今後最も力を入れるべきことは何だと思いますか？

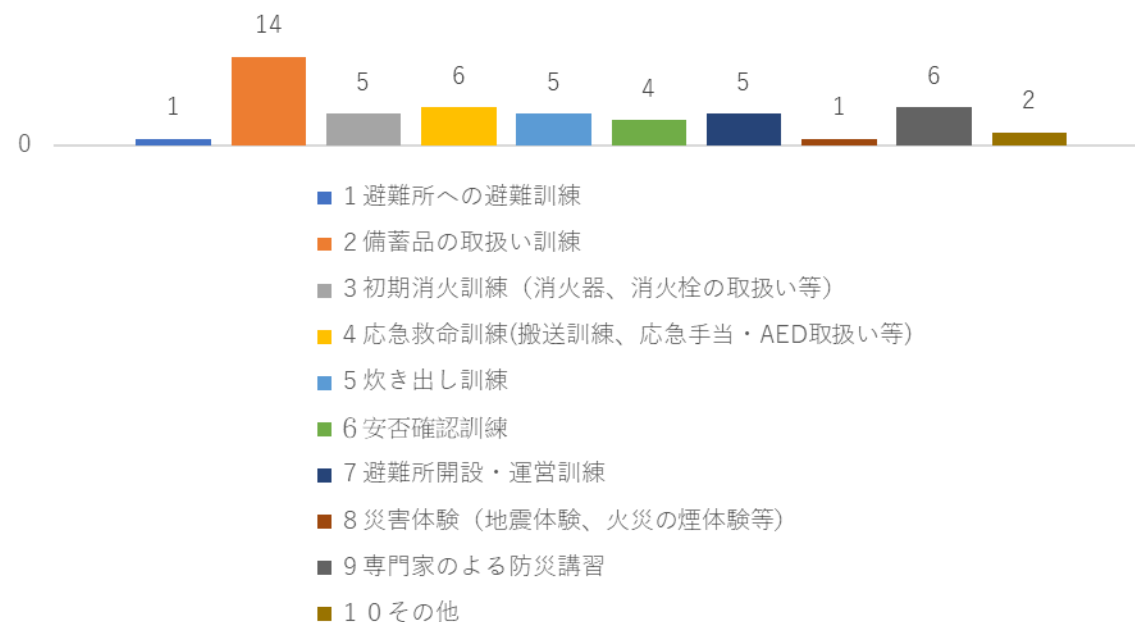
50



●アンケート結果によると、「個人・家庭での防災対策（自助）」（14人）が最も支持されました。次いで「自主防災組織や自治会等での防災対策（共助）」・「市や防災機関の防災対策（公助）」（各4人）となっています。

今後実施したい訓練は何ですか？（複数回答可）

50



●今後実施を希望する訓練で最も関心が高いのは「備蓄品の取扱い訓練」（14人）で、次いで「応急救命訓練」・「専門家による防災講習」（各6人）となっています。

蜂屋地区

参加者総数

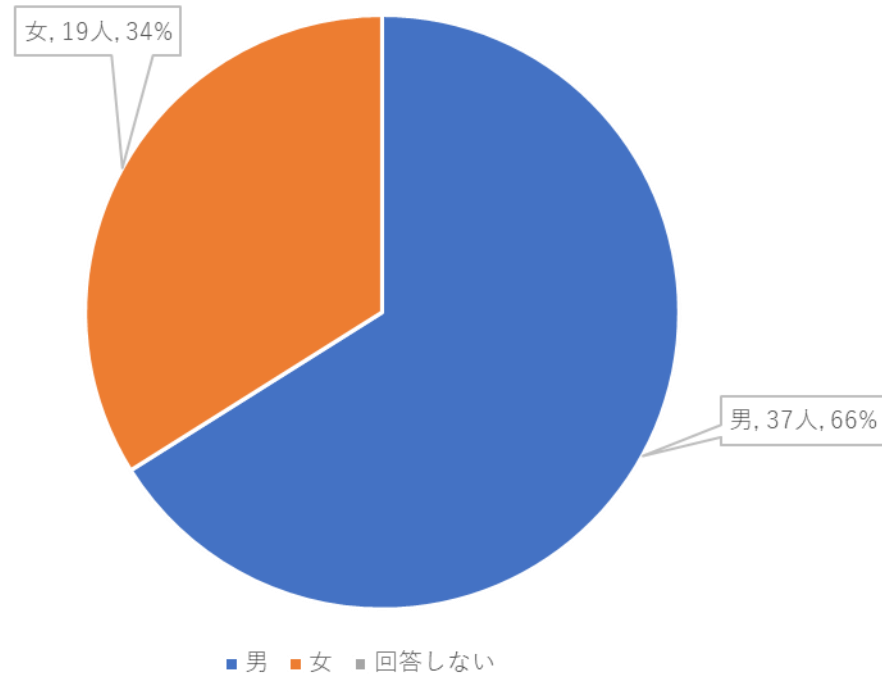
一 次 訓 練：480人

二 次 訓 練： 91人

アンケート回答者総数： 56人

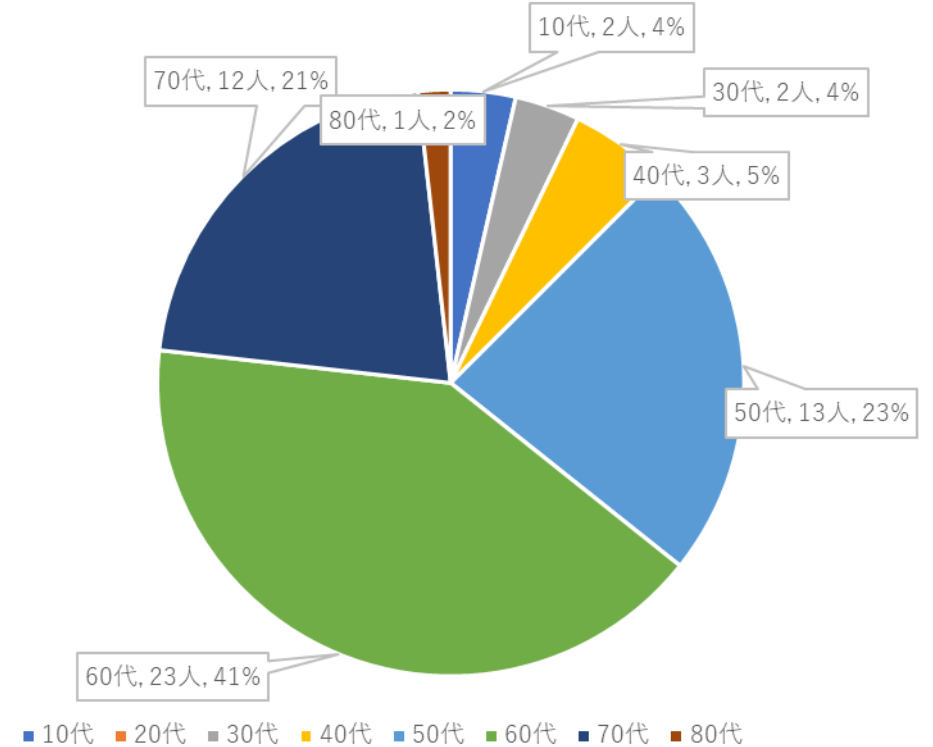
蜂屋地区防災訓練アンケート集計結果

アンケート回答者の性別別



●性別別の回答人数は、「男性」37人、「女性」19人となっています。

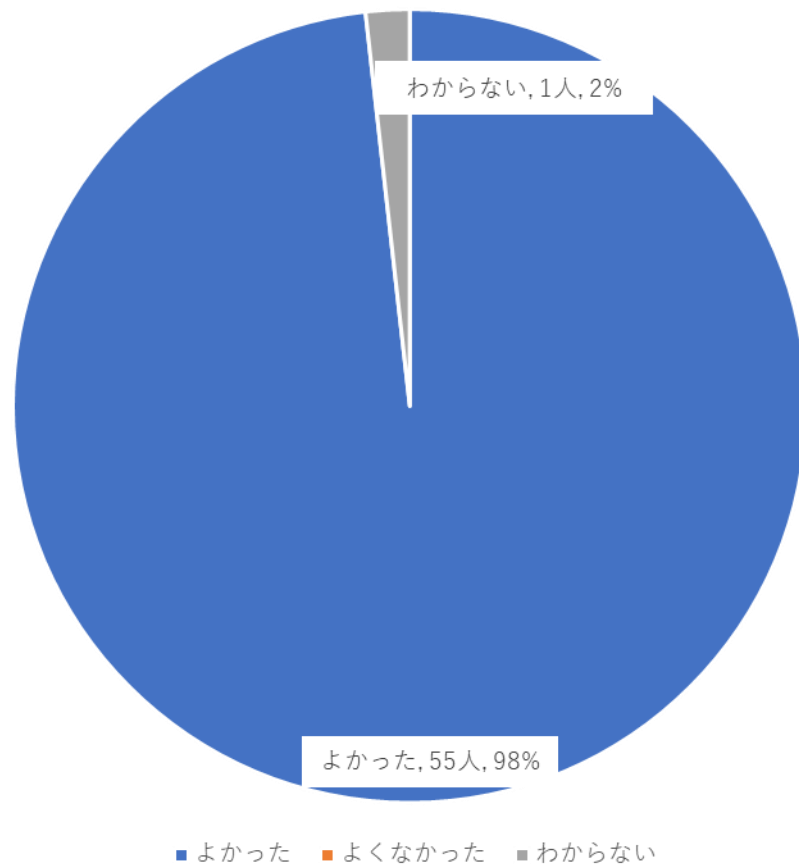
アンケート回答者の年齢別



●年齢別の回答人数は多い順に60歳代23人、50歳代13人、70歳代12人、40歳代3人、10歳代・30歳代各2人、80歳代1人の順となっています。

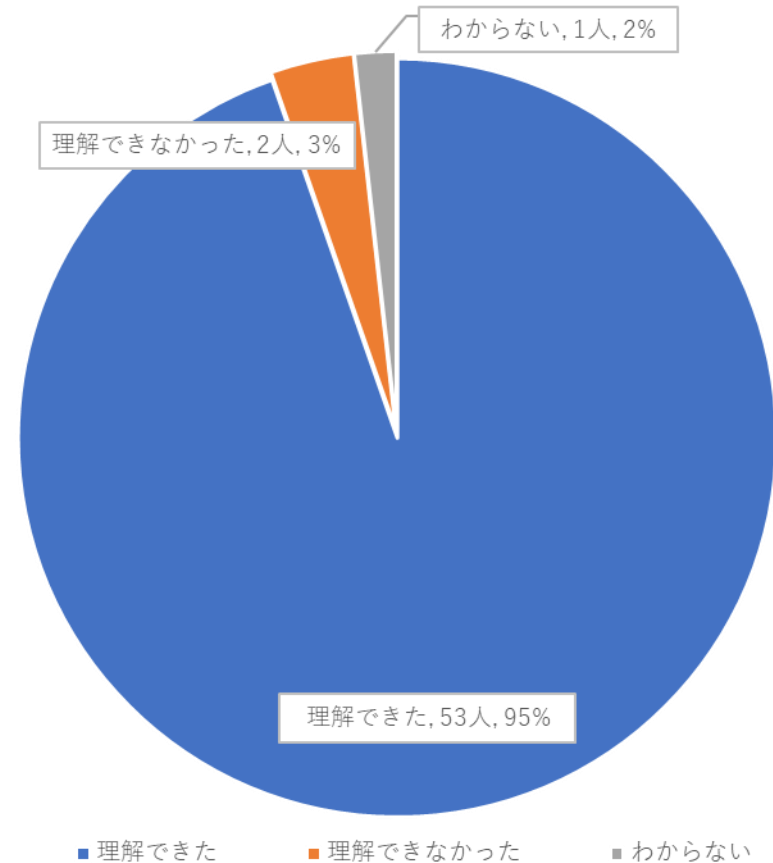
蜂屋地区防災訓練アンケート集計結果

本日の訓練について



●アンケート回答者の98%が「よかった」（55人）と回答されました。

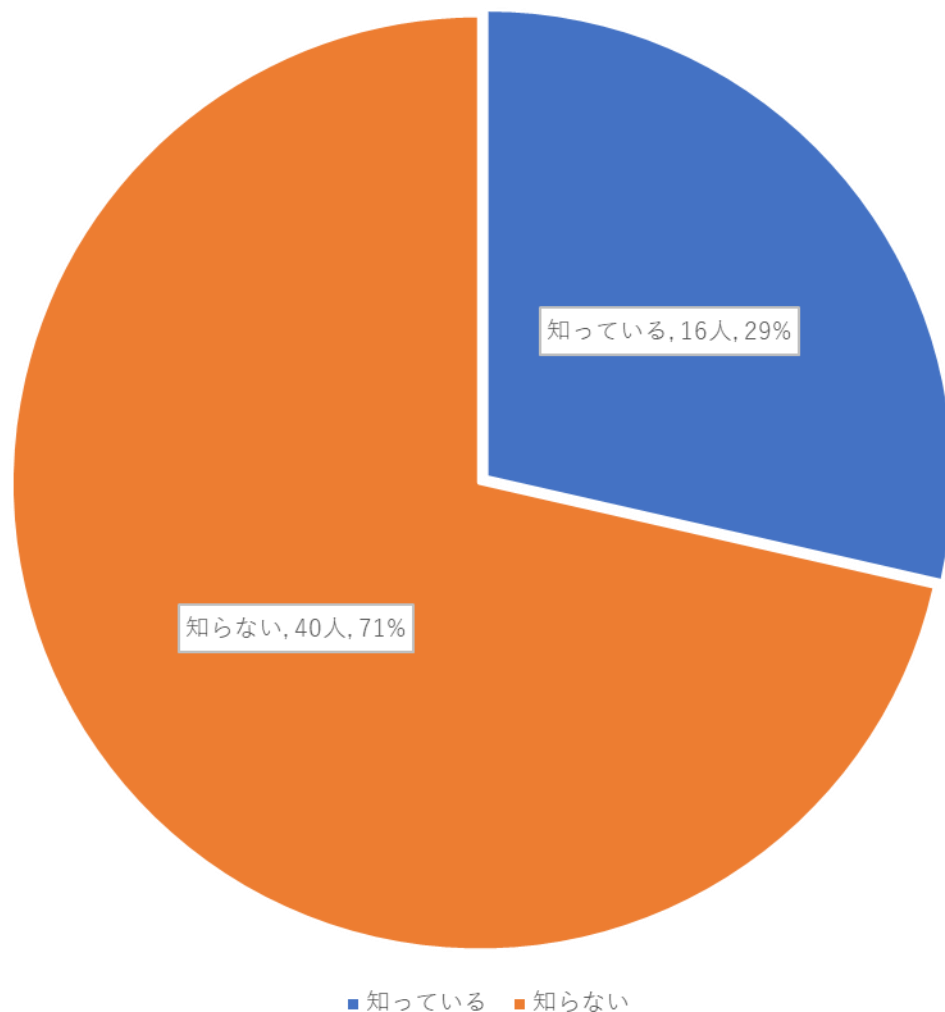
DVD「発災後の生活環境を考える」について



●レスキューストックヤード常務理事の浦野愛氏によるDVD「発災後の生活環境を考える」については、アンケート回答者の95%が「理解できた」（53人）と回答されました。

蜂屋地区防災訓練アンケート集計結果

市公式LINEにて体験できる「デジタル避難訓練」を知っていますか。

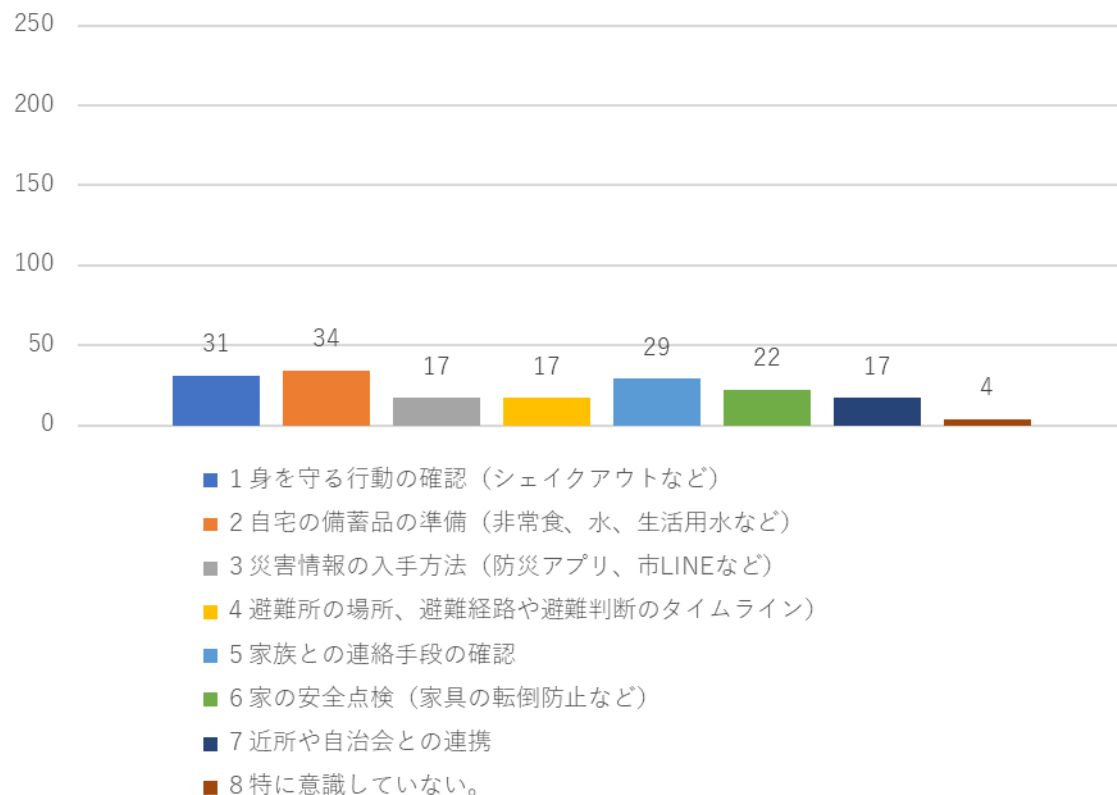


●アンケート回答者の71%が「知らない」（40人）と回答されました。

※「デジタル避難訓練」とは、LINEの画面上で地震発生時にとるべき防災行動や情報収集の仕方を学べる避難体験コンテンツです。

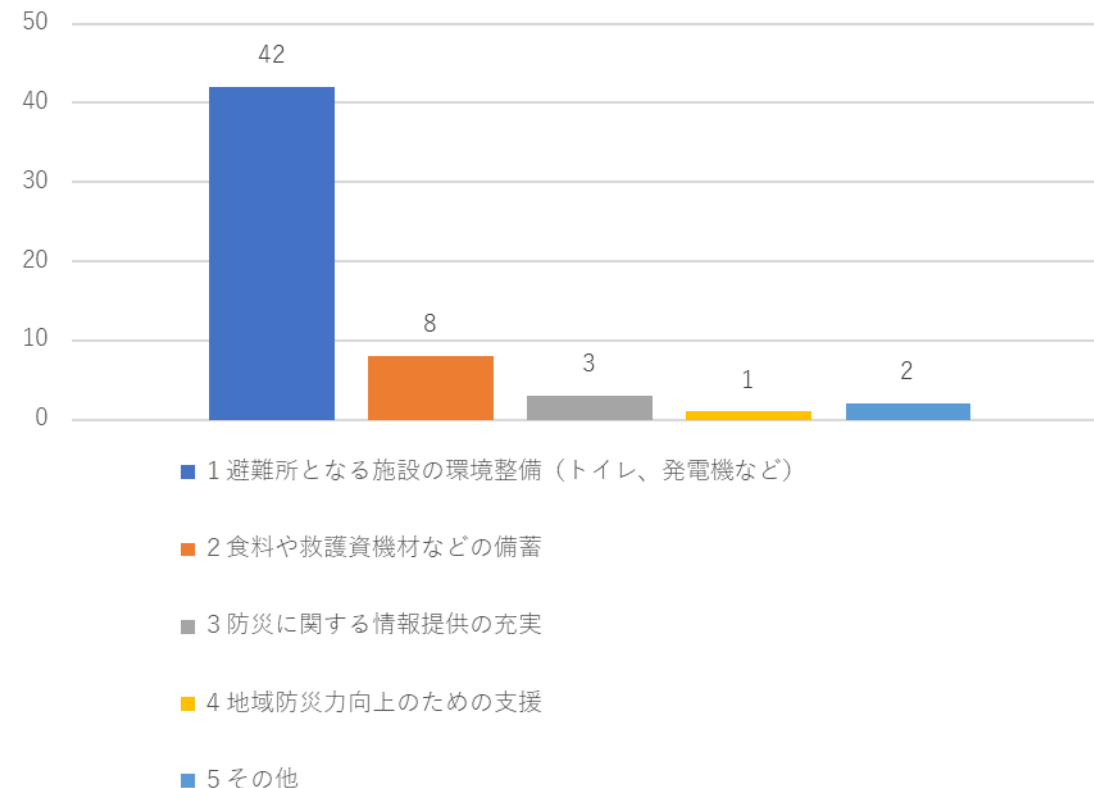
蜂屋地区防災訓練アンケート集計結果

災害に備えて、普段から意識していることは何ですか？（複数回答可）



●災害に備えて「自宅の備蓄品の準備」（34人）や「身を守る行動の確認」（31人）が意識されている項目となりました。
「家族との連絡手段の確認」（29人）や「家の安全点検」（22人）も比較的重視されています。

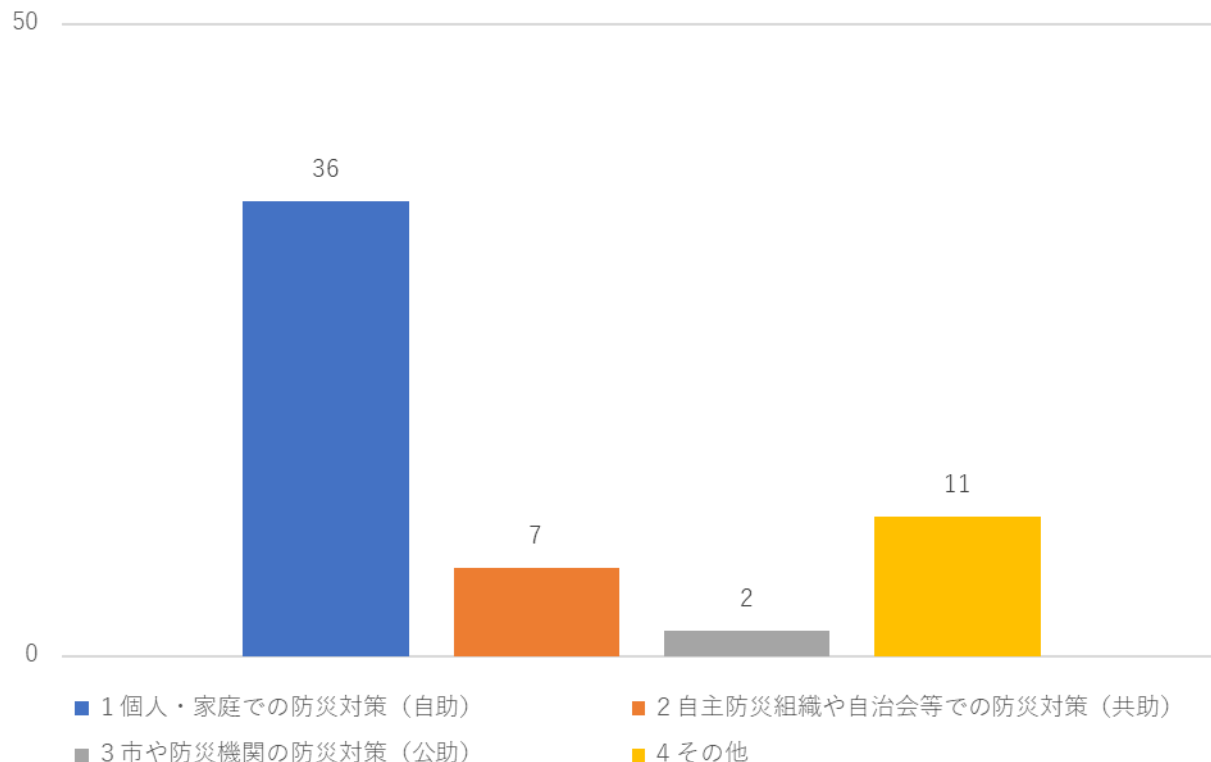
防災に関して市に力を入れて取り組んで欲しいことは何ですか？



●アンケート結果では、「避難所となる施設の環境整備」（42人）が最も多く選ばれ、「食料や救護資機材などの備蓄」（8人）が次に続きました。

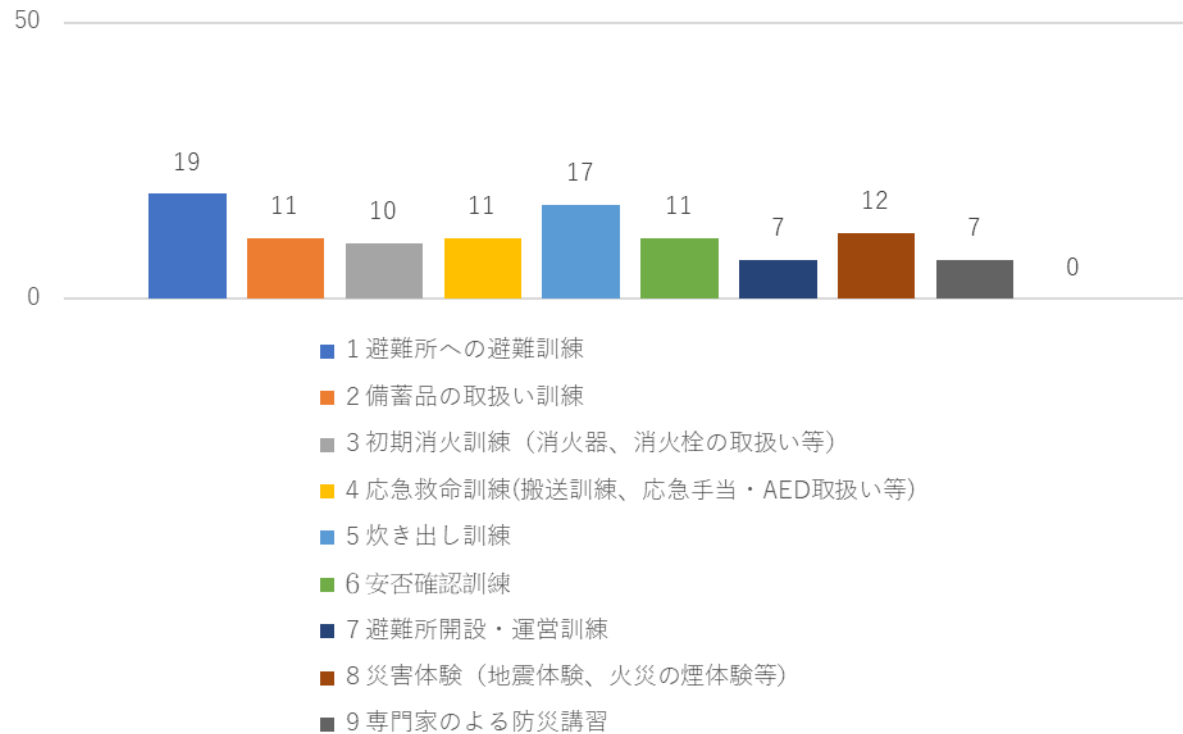
蜂屋地区防災訓練アンケート集計結果

防災意識を高めるために、今後最も力を入れるべきことは何だと思いますか？



●アンケート結果によると、「個人・家庭での防災対策（自助）」（36人）が最も支持されました。次いで「その他」（11人）、「自主防災組織や自治会等での防災対策（共助）」（7人）となっています。

今後実施したい訓練は何ですか？（複数回答可）



●今後、実施を希望する訓練で最も関心が高いのは「避難場への避難訓練」（19人）で、次いで「炊き出し訓練」（17人）となっています。

加茂野地区

参加者総数

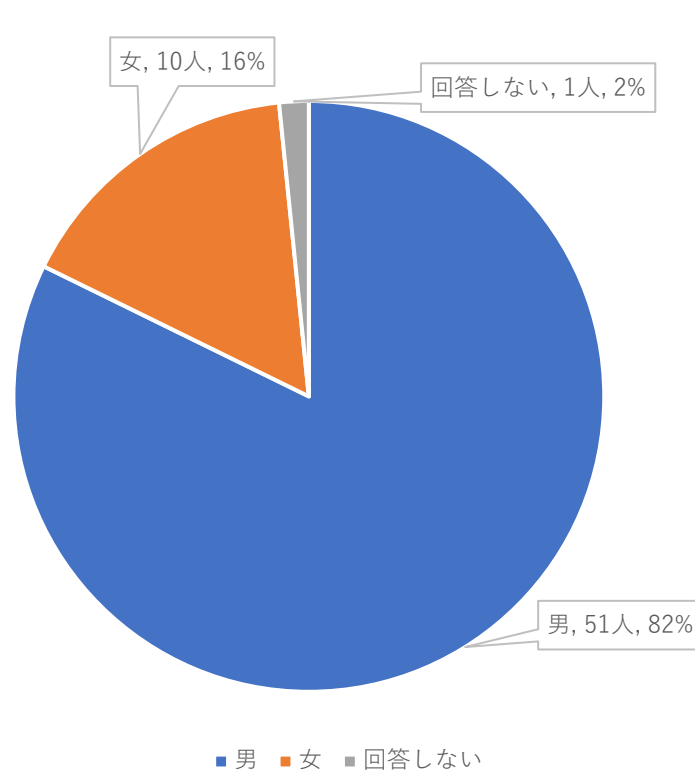
一 次 訓 練：239人

二 次 訓 練：270人

アンケート回答者総数： 62人

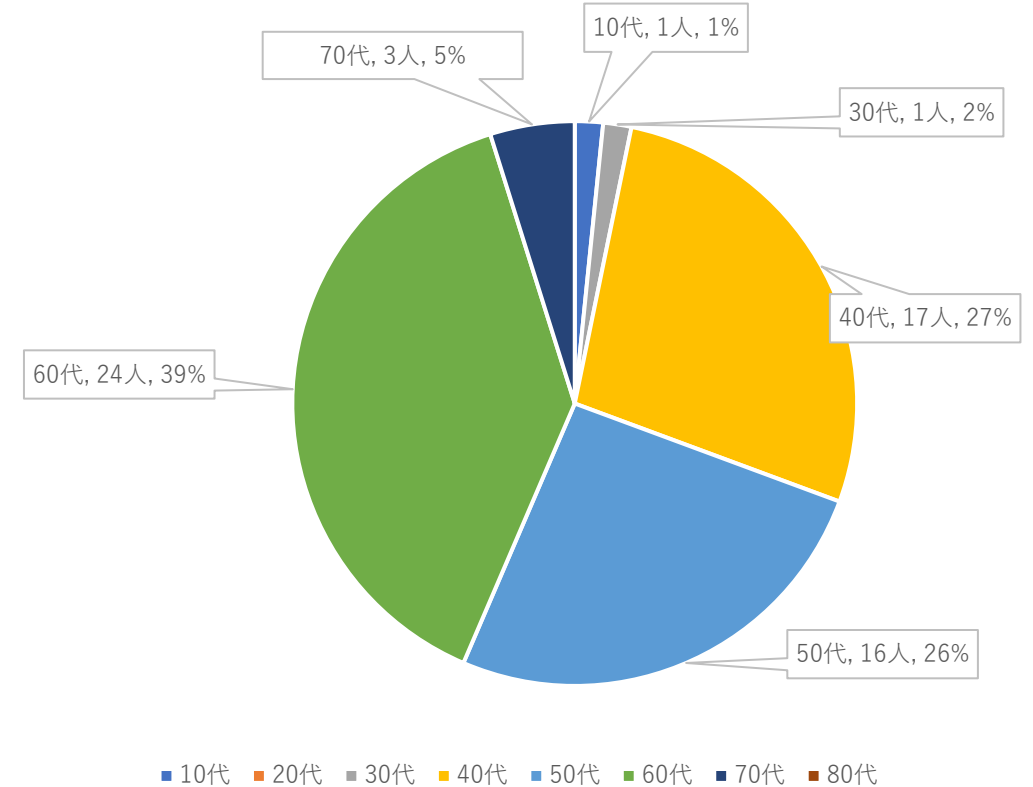
加茂野地区防災訓練アンケート集計結果

アンケート回答者の性別別



●性別別の回答人数は、「男性」51人、「女性」10人、「回答しない」1人となっています。

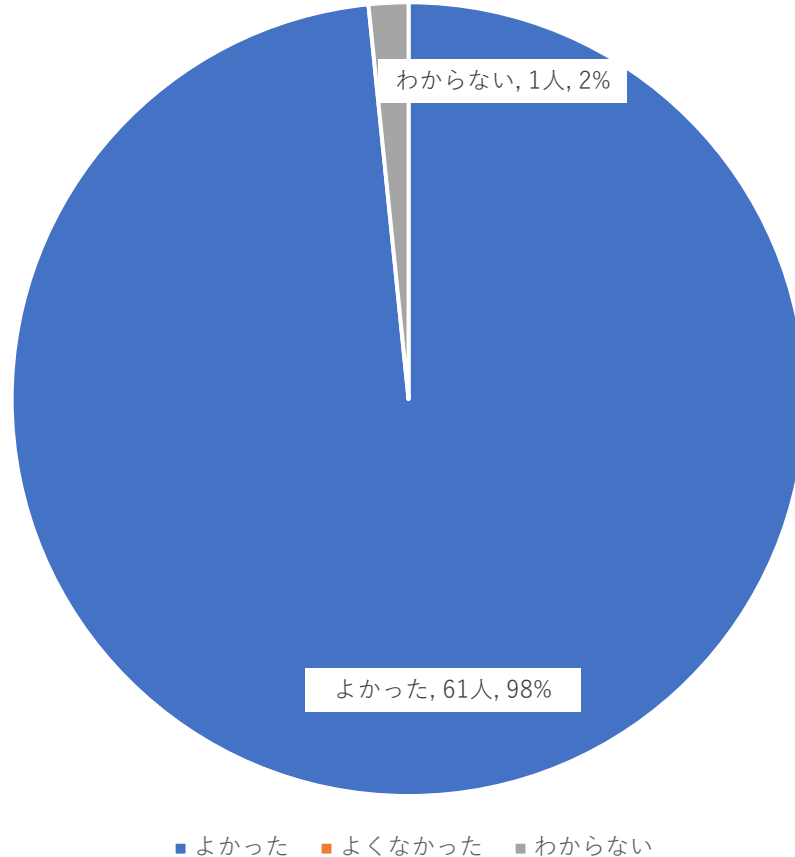
アンケート回答者の年齢別



●年齢別の回答人数は多い順に60歳代24人、40歳代17人、50歳代16人、70歳代3人、10歳代・30歳代各1人の順となっています。

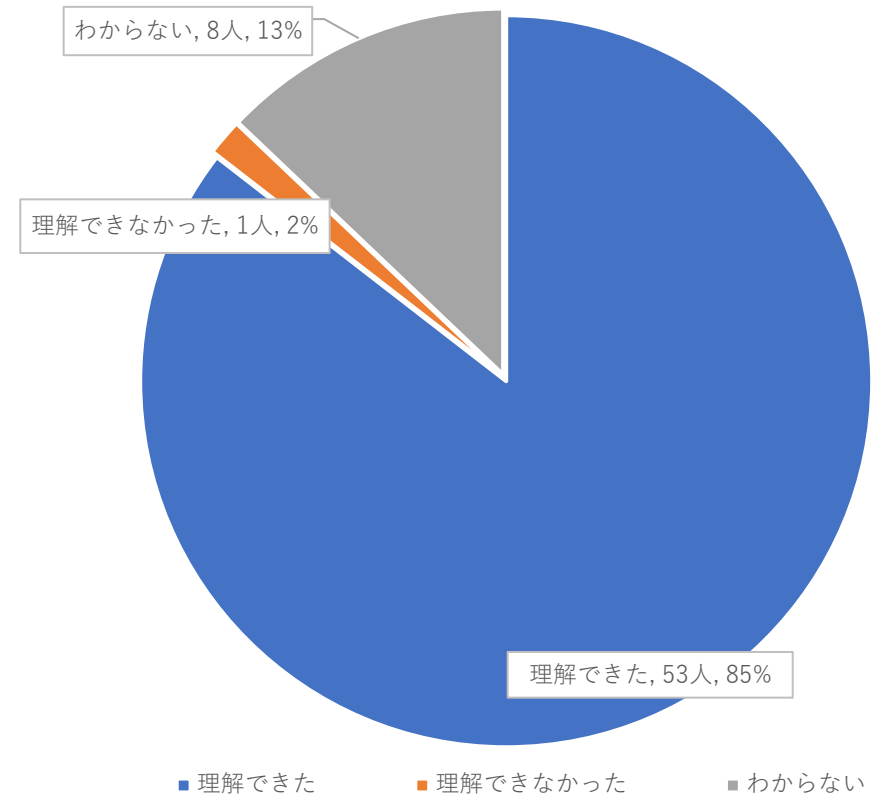
加茂野地区防災訓練アンケート集計結果

本日の訓練について



●アンケート回答者の98%が「よかった」（61人）と回答されました。

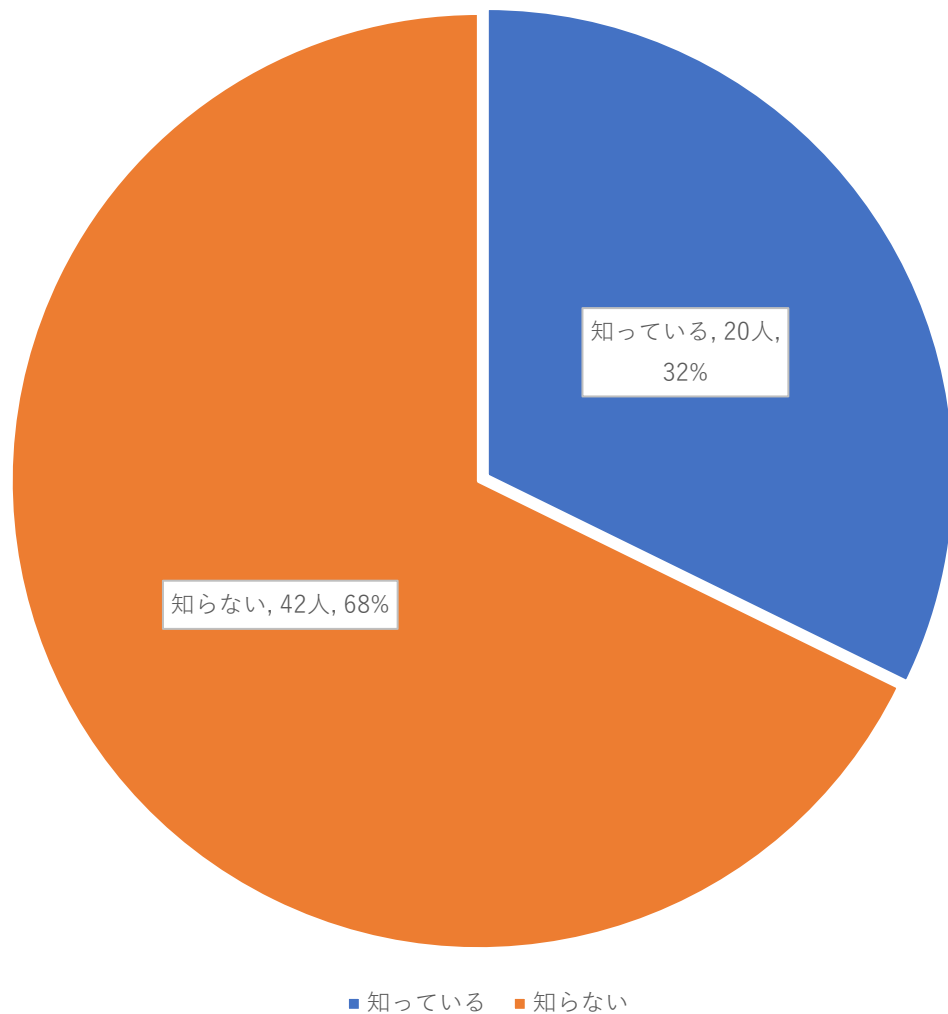
DVD「発災後の生活環境を考える」について



●レスキューストックヤード常務理事の浦野愛氏によるDVD「発災後の生活環境を考える」については、アンケート回答者の85%が「理解できた」（53人）と回答されました。

加茂野地区防災訓練アンケート集計結果

市公式LINEにて体験できる「デジタル避難訓練」を知っていますか。

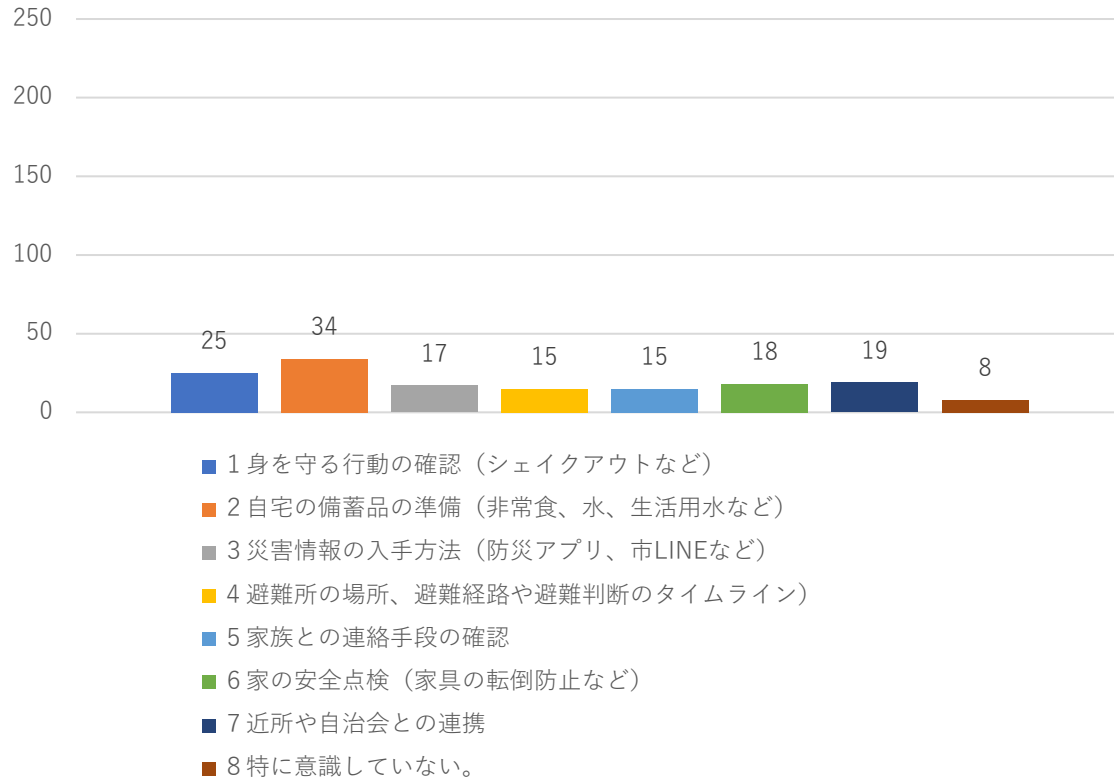


●アンケート回答者の68%が「知らない」（42人）と回答されました。

※「デジタル避難訓練」とは、LINEの画面上で地震発生時にとるべき防災行動や情報収集の仕方を学べる避難体験コンテンツです。

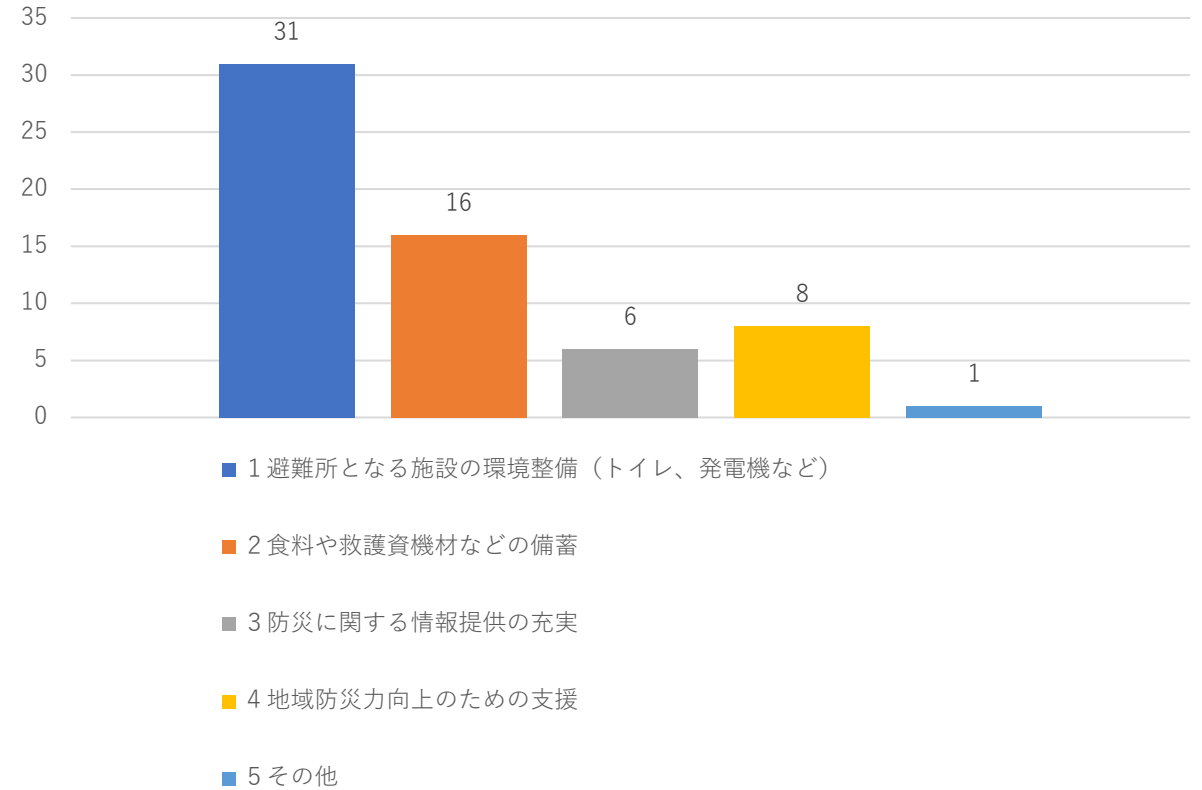
加茂野地区防災訓練アンケート集計結果

災害に備えて、普段から意識していることは何ですか？（複数回答可）



●災害に備えて「自宅の備蓄品の準備」（34人）や「身を守る行動の確認」（25人）が意識されている項目となりました。「近所や自治会との連携」（19人）や「家の安全点検」（18人）なども比較的重視されています。

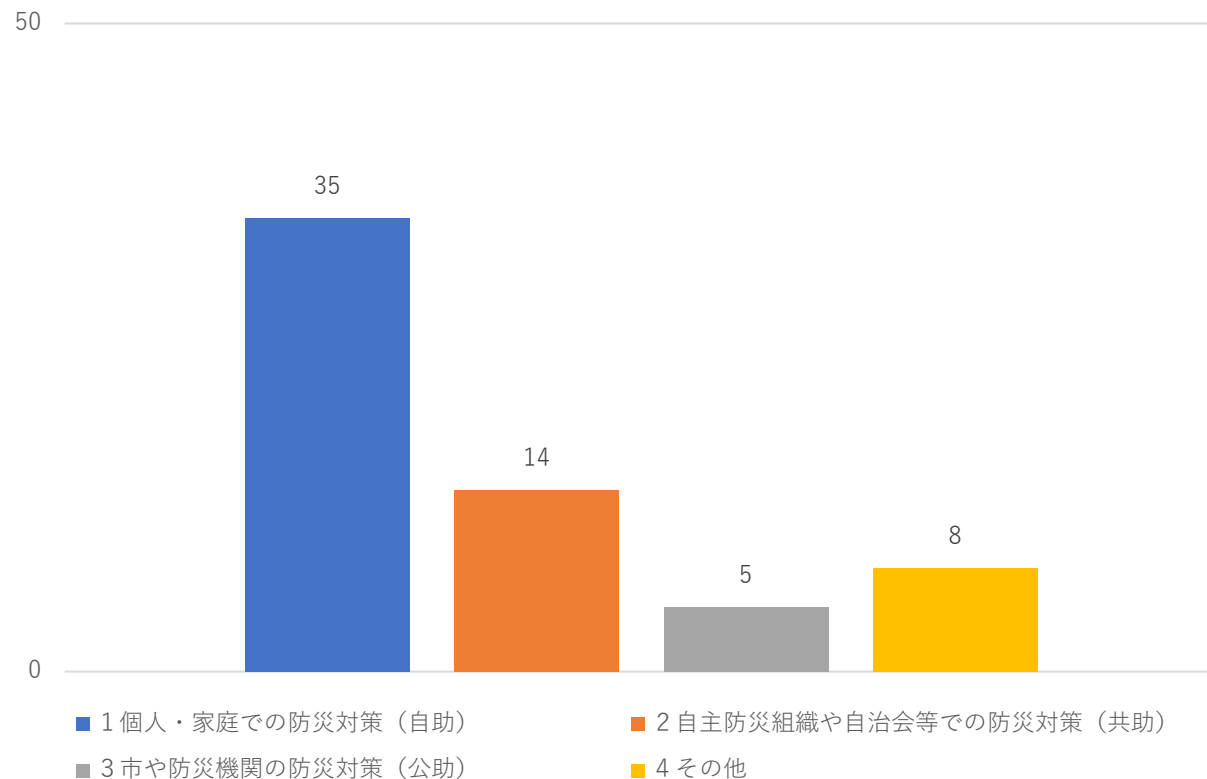
防災に関して市に力を入れて取り組んで欲しいことは何ですか？



●アンケート結果では、「避難所となる施設の環境整備」（31人）が最も多く選ばれ、「食料や救護資機材などの備蓄」（16人）「地域防災力向上のための支援」（8人）が次に続きました。

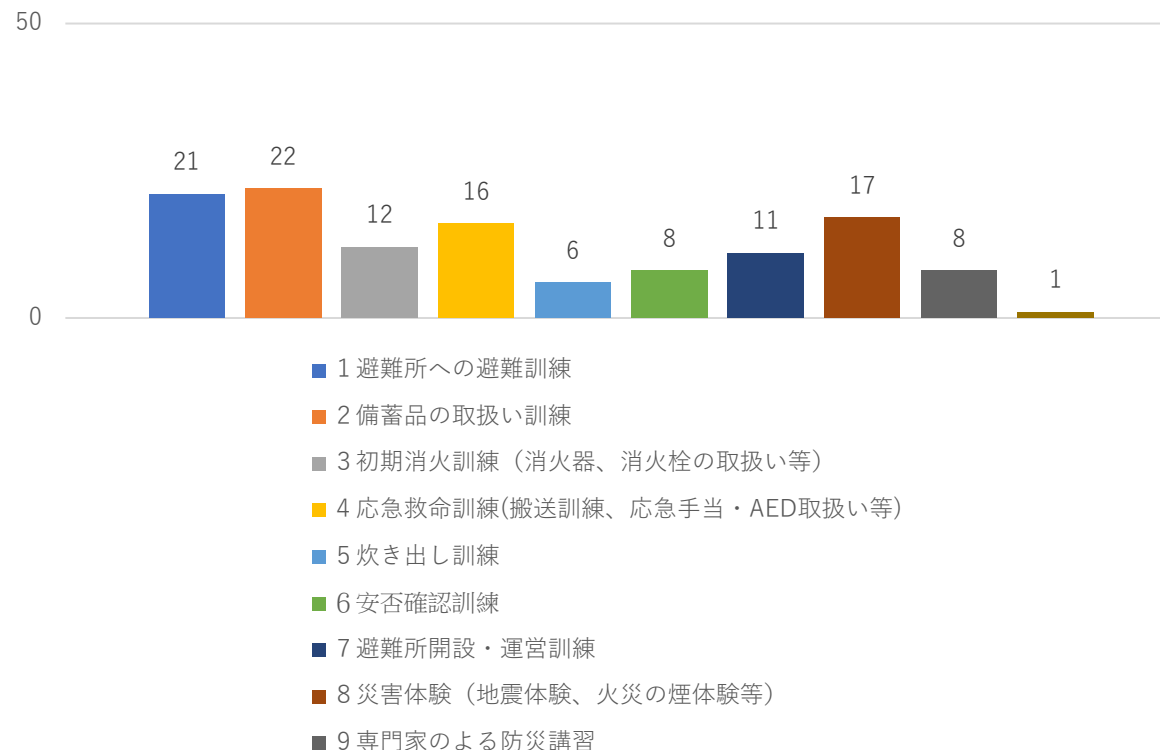
加茂野地区防災訓練アンケート集計結果

防災意識を高めるために、今後最も力を入れるべきことは何だと思いますか？



●アンケート結果によると、「個人・家庭での防災対策（自助）」（35人）が最も支持されました。次いで「自主防災組織や自治会等での防災対策（共助）」（14人）、「その他」（8人）となっています。

今後実施したい訓練は何ですか？（複数回答可）



●今後、実施を希望する訓練で最も関心が高いのは「備品等の取扱い訓練」（22人）で、次いで「避難所への避難訓練」（21人）となっています。また、「災害体験」（17人）や「応急救命訓練」（16人）への関心も見られました。

伊深地区

参加者総数

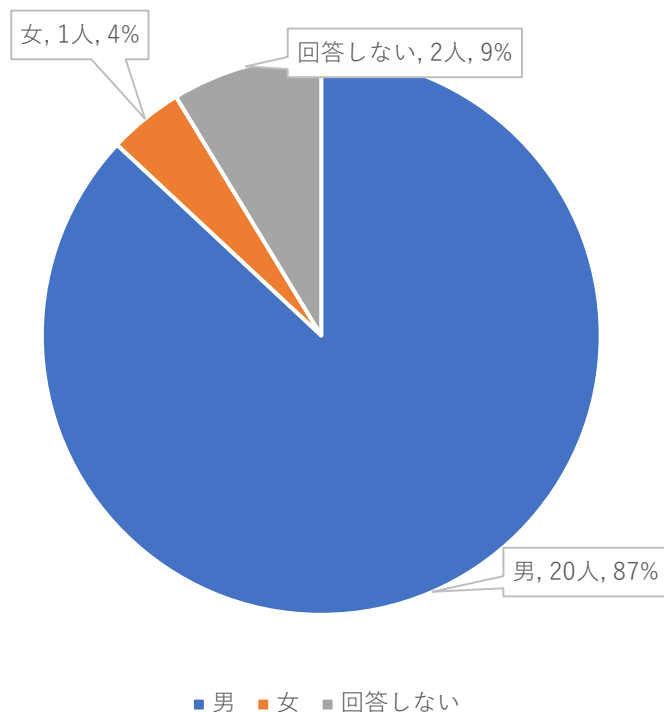
一 次 訓 練：165人

二 次 訓 練： 79人

アンケート回答者総数： 23人

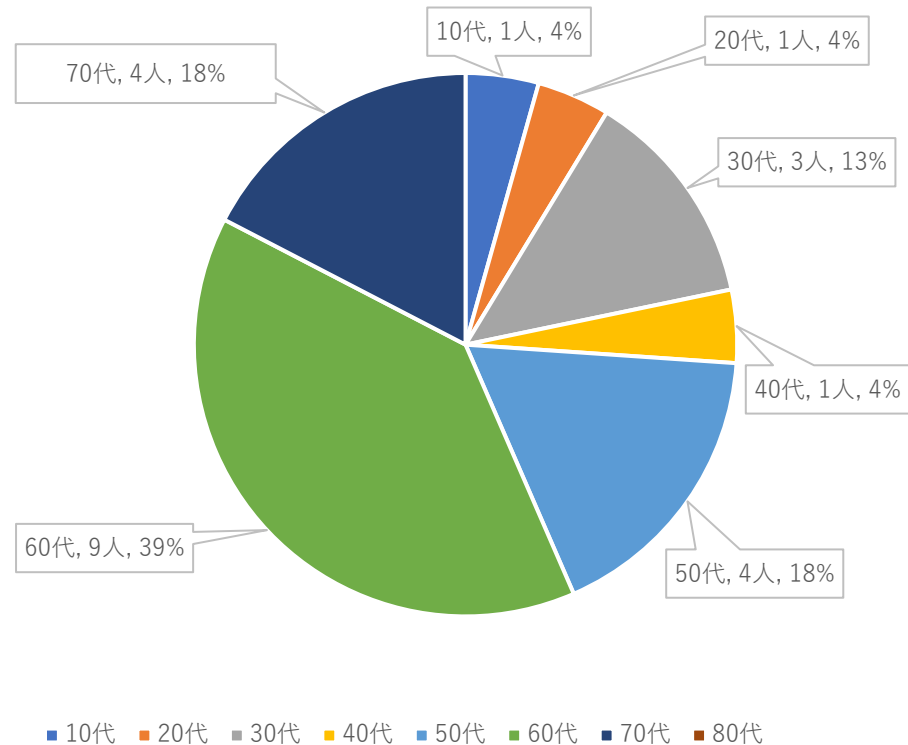
伊深地区防災訓練アンケート集計結果

アンケート回答者の性別別



●性別別の回答人数は、「男性」20人、「女性」1人、「回答しない」2人となっています。

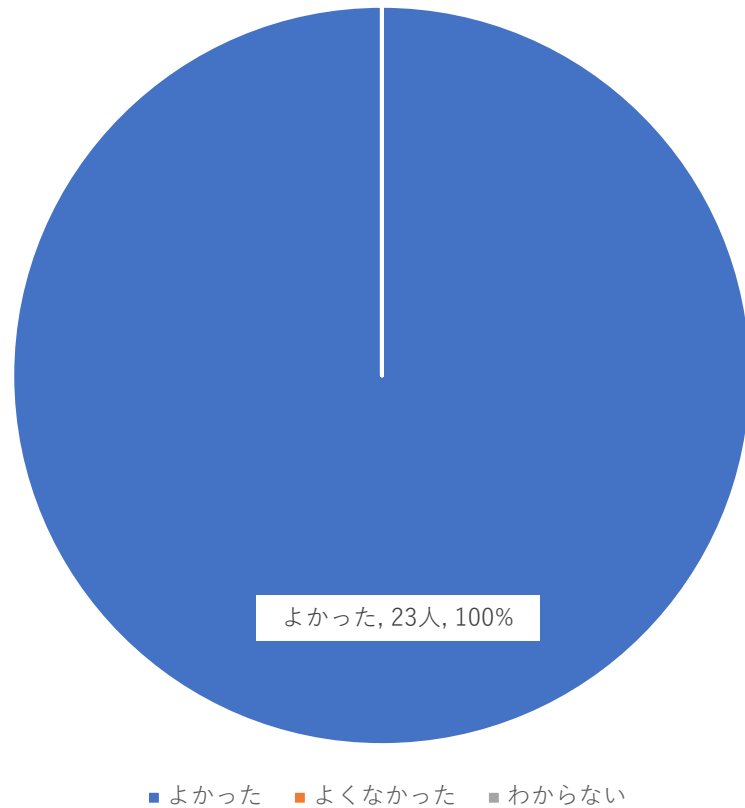
アンケート回答者の年齢



●年齢別の回答人数は多い順に60歳代9人、50歳代・70歳代（各4人）、30歳代3人、40歳代・10歳代・20歳代（各1人）の順となっています。

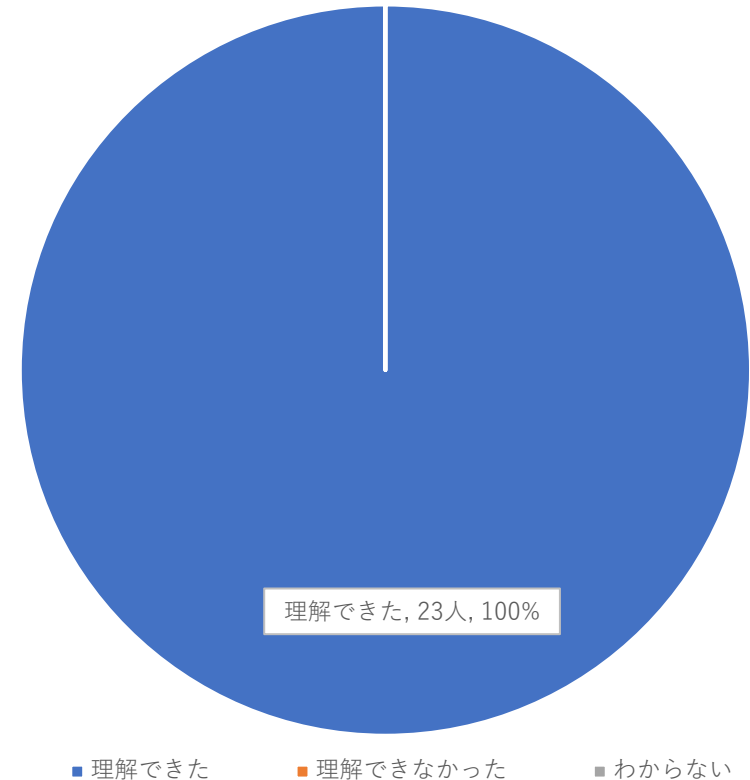
伊深地区防災訓練アンケート集計結果

本日の訓練について



●全回答者が「よかった」（23人）と回答されました。

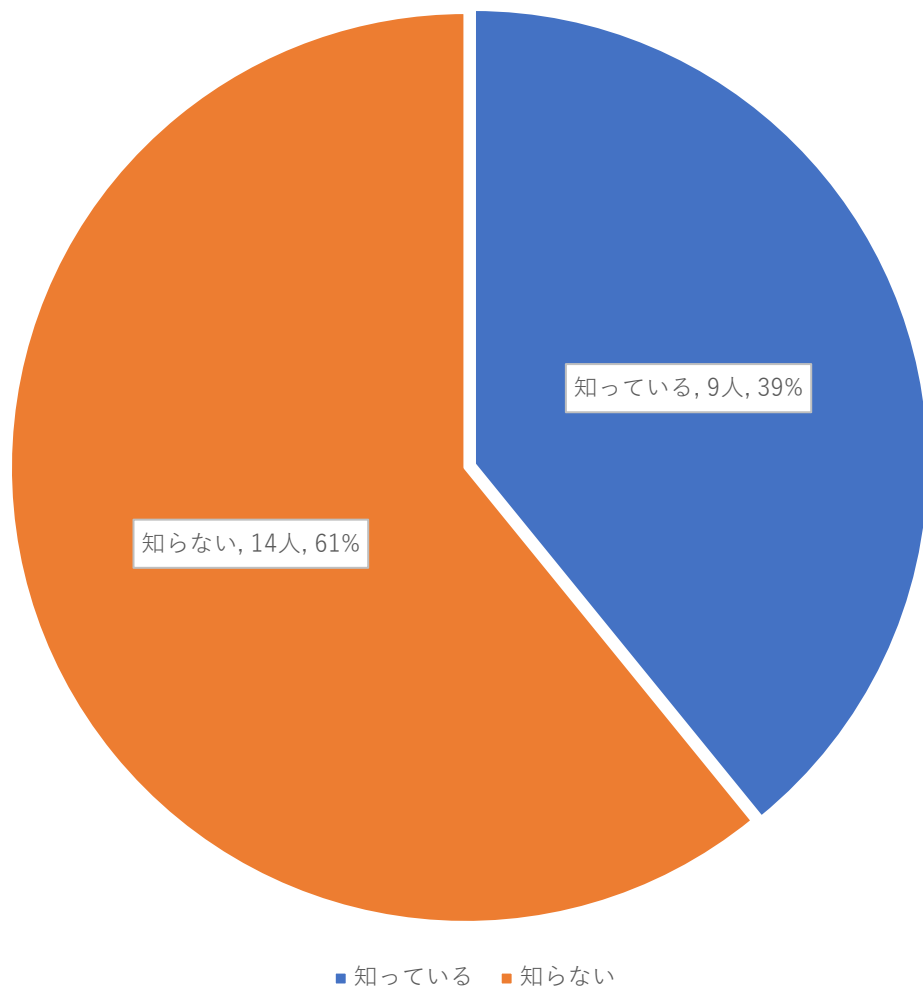
DVD「発災後の生活環境を考える」について



●レスキューストックヤード常務理事の浦野愛氏によるDVD「発災後の生活環境を考える」については、全回答者が「理解できた」（23人）と回答されました。

伊深地区防災訓練アンケート集計結果

市公式LINEにて体験できる「デジタル避難訓練」を知っていますか。

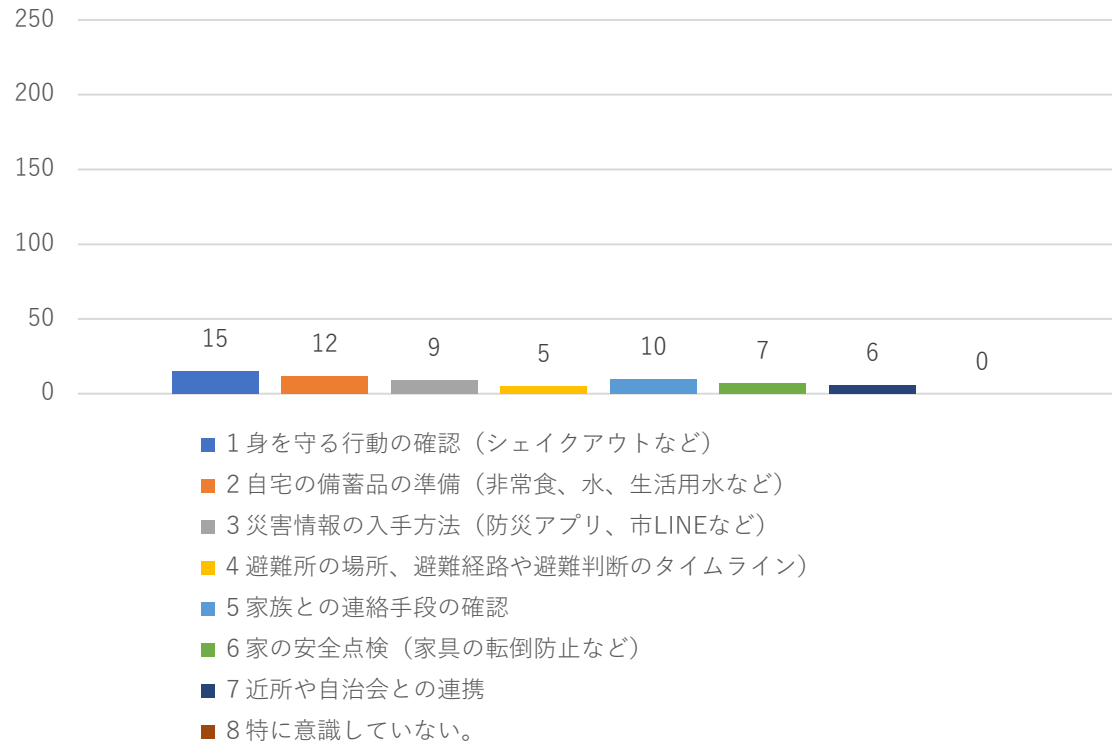


●アンケート回答者の61%が「知らない」（14人）と回答されました。

※「デジタル避難訓練」とは、LINEの画面上で地震発生時にとるべき防災行動や情報収集の仕方を学べる避難体験コンテンツです。

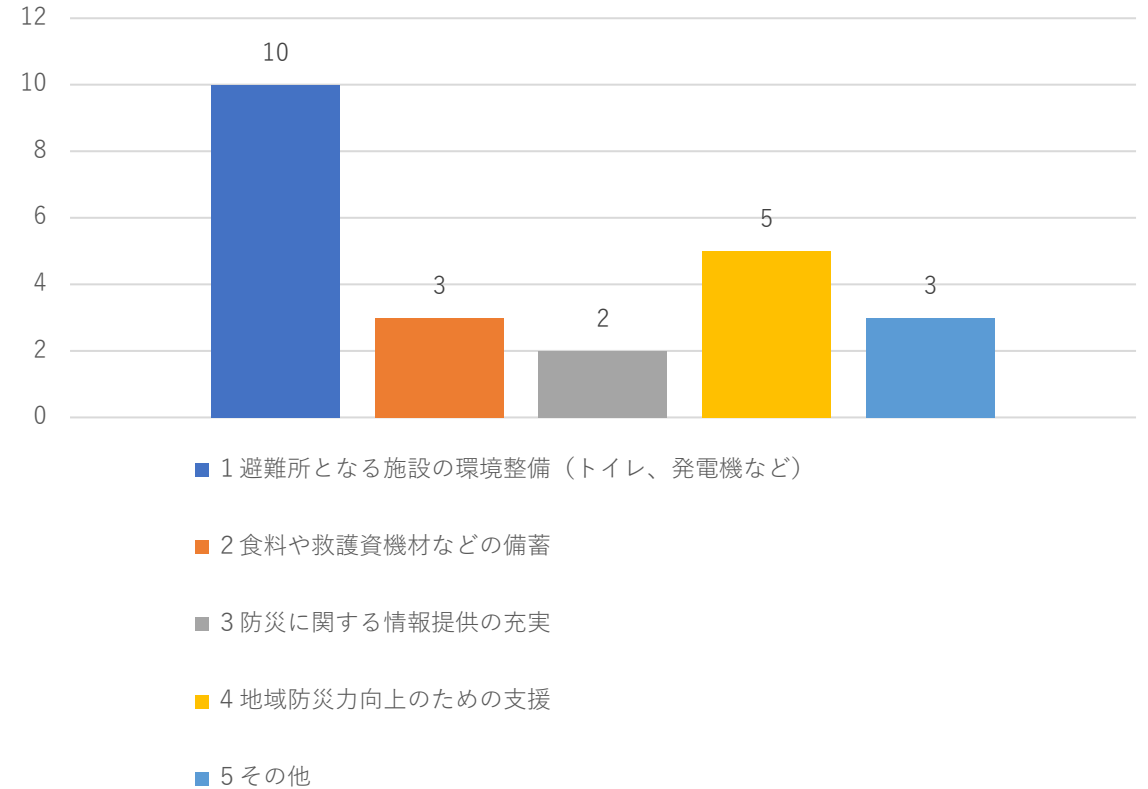
伊深地区防災訓練アンケート集計結果

災害に備えて、普段から意識していることは何ですか？（複数回答可）



●災害に備えて「身を守る行動の確認」（15人）や「自宅の備蓄品の準備」（12人）が意識されている項目となりました。「家族との連絡手段の確認」（10人）や「災害情報の入手方法」（9人）なども比較的重視されています。

防災に関して市に力を入れて取り組んで欲しいことは何ですか？

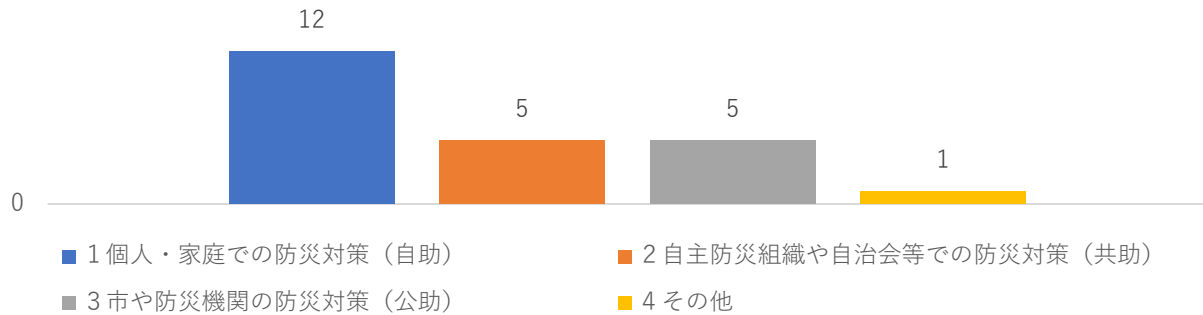


●アンケート結果では、「避難所となる施設の環境整備」（10人）が最も多く選ばれ、「地域防災力向上のための支援」（5人）、「食料や救護資機材などの備蓄」・「その他」（各3人）が続きました。

伊深地区防災訓練アンケート集計結果

防災意識を高めるために、今後最も力を入れるべきことは何だと思いますか？

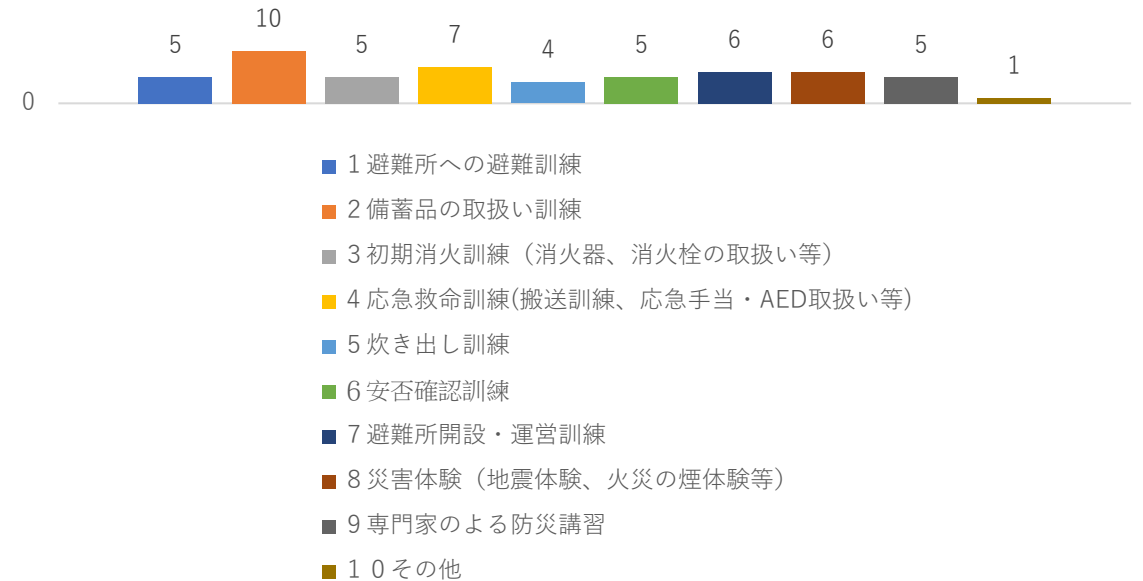
50



●アンケート結果によると、「個人・家庭での防災対策（自助）」（12人）が最も支持されました。次いで「自主防災組織や自治会等での防災対策（共助）」・「市や防災訓練の防災対策（公助）」（各5人）となっています。

今後実施したい訓練は何ですか？（複数回答可）

50



●今後、実施を希望する訓練で最も関心が高いのは「備品等の取扱い訓練」（10人）で、次いで「応急救命訓練」（7人）となっています。また、「避難所開設・運営訓練」や「災害体験」（各6人）への関心も見られました。

三和地区

参加者総数

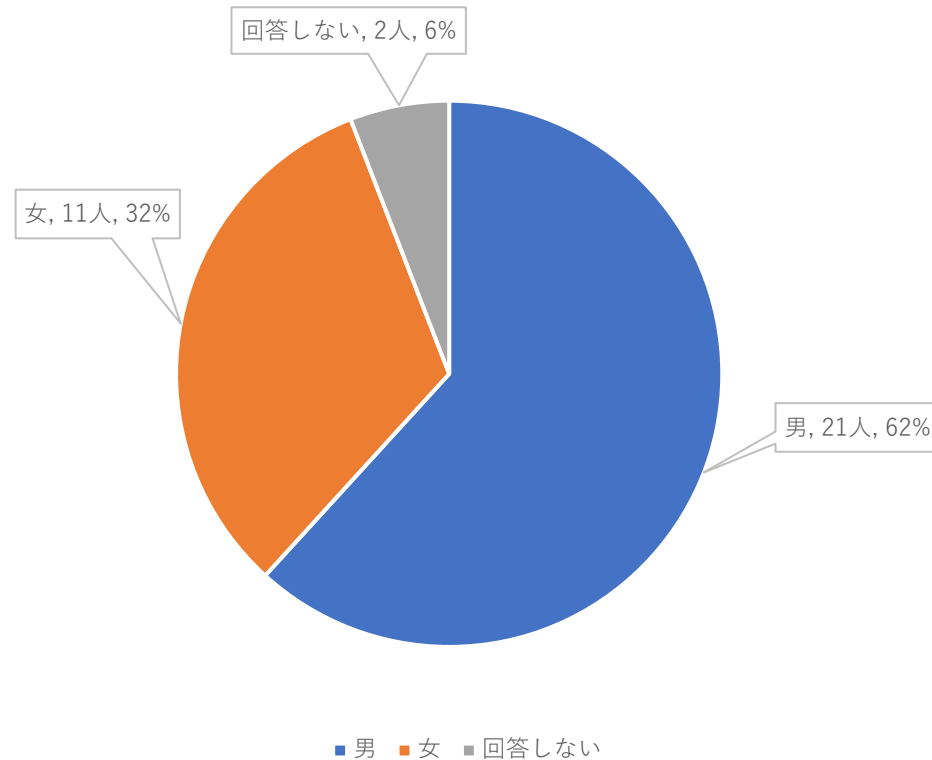
一 次 訓 練：132人

二 次 訓 練： 61人

アンケート回答者総数： 34人

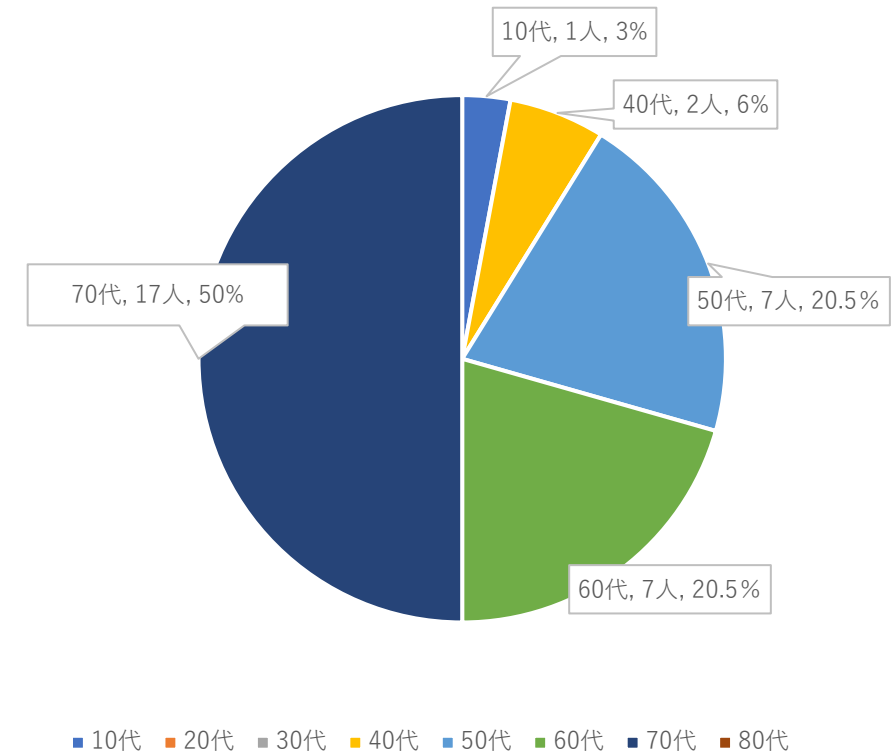
三和地区防災訓練アンケート集計結果

アンケート回答者の性別別



●性別別の回答人数は、「男性」21人、「女性」11人、「回答しない」2人となっています。

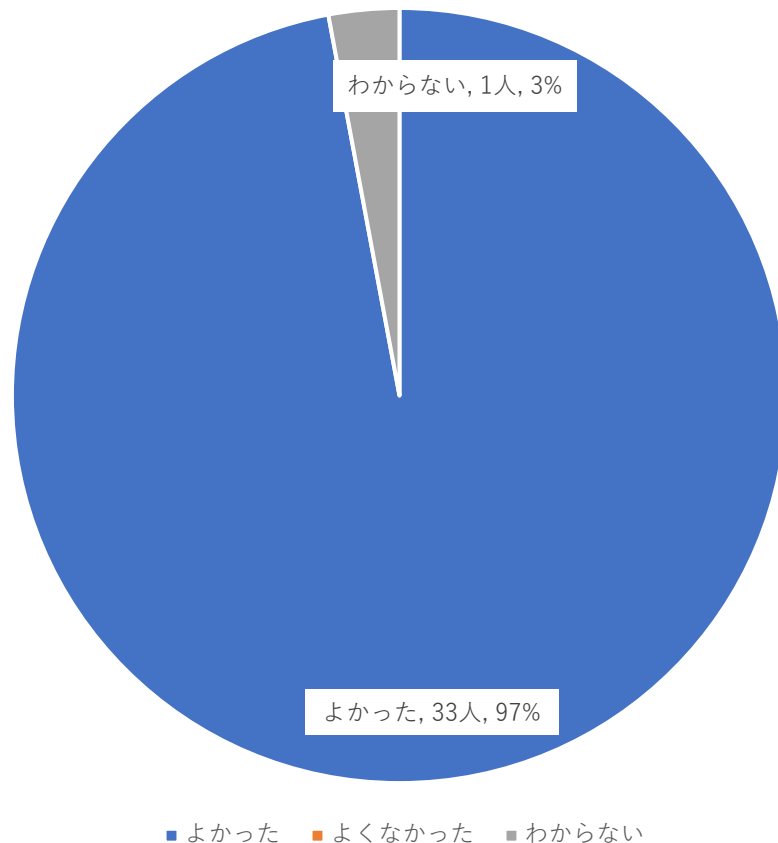
アンケート回答者の年齢別



●年齢別の回答人数は多い順に70歳代17人、60歳代・50歳代各7人、40歳代2人、10歳代1人の順となっています。

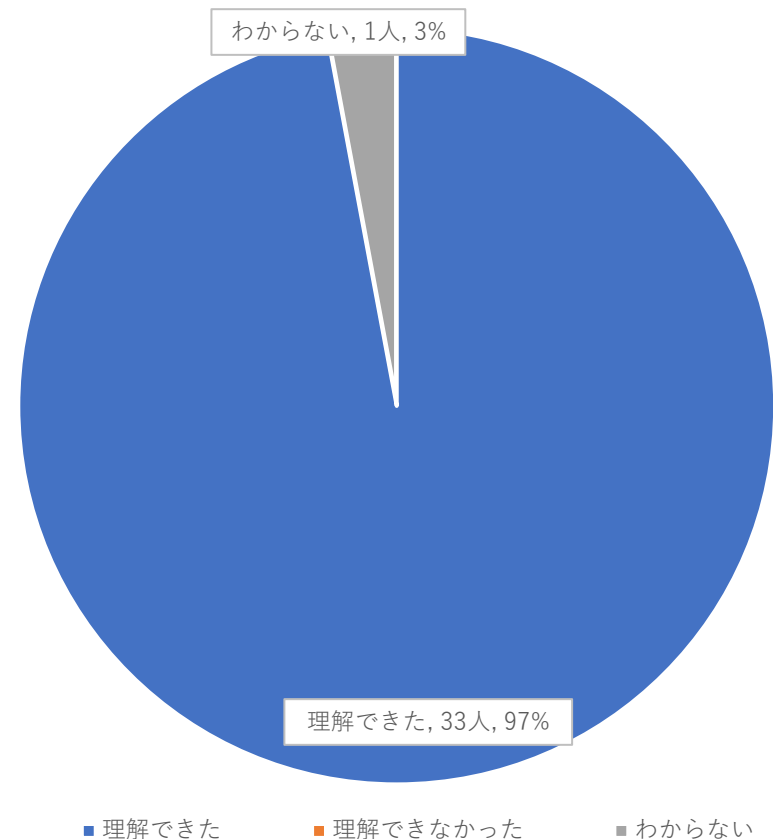
三和地区防災訓練アンケート集計結果

本日の訓練について



●アンケート回答者の97%が「よかった」（33人）と回答されました。

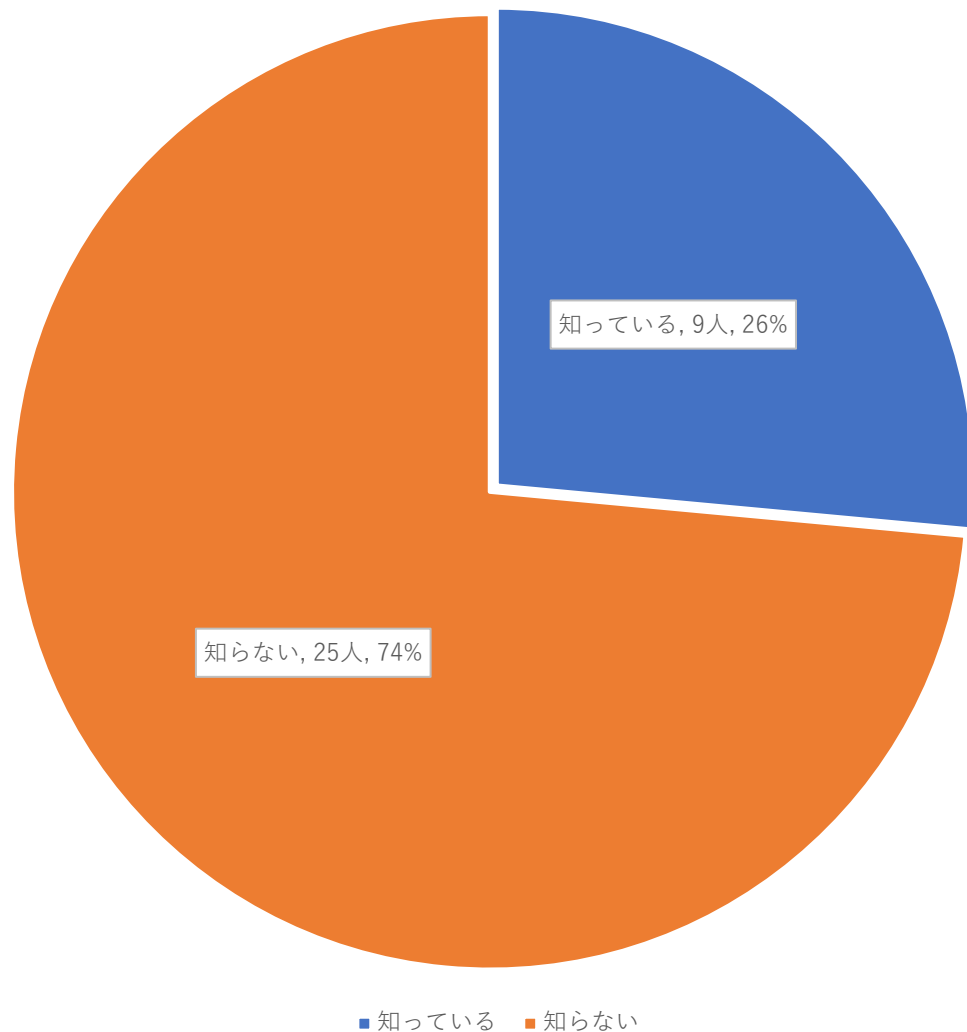
DVD「発災後の生活環境を考える」について



●レスキューストックヤード常務理事の浦野愛氏によるDVD「発災後の生活環境を考える」については、アンケート回答者の97%が「理解できた」（33人）と回答されました。

三和地区防災訓練アンケート集計結果

市公式LINEにて体験できる「デジタル避難訓練」を知っていますか。

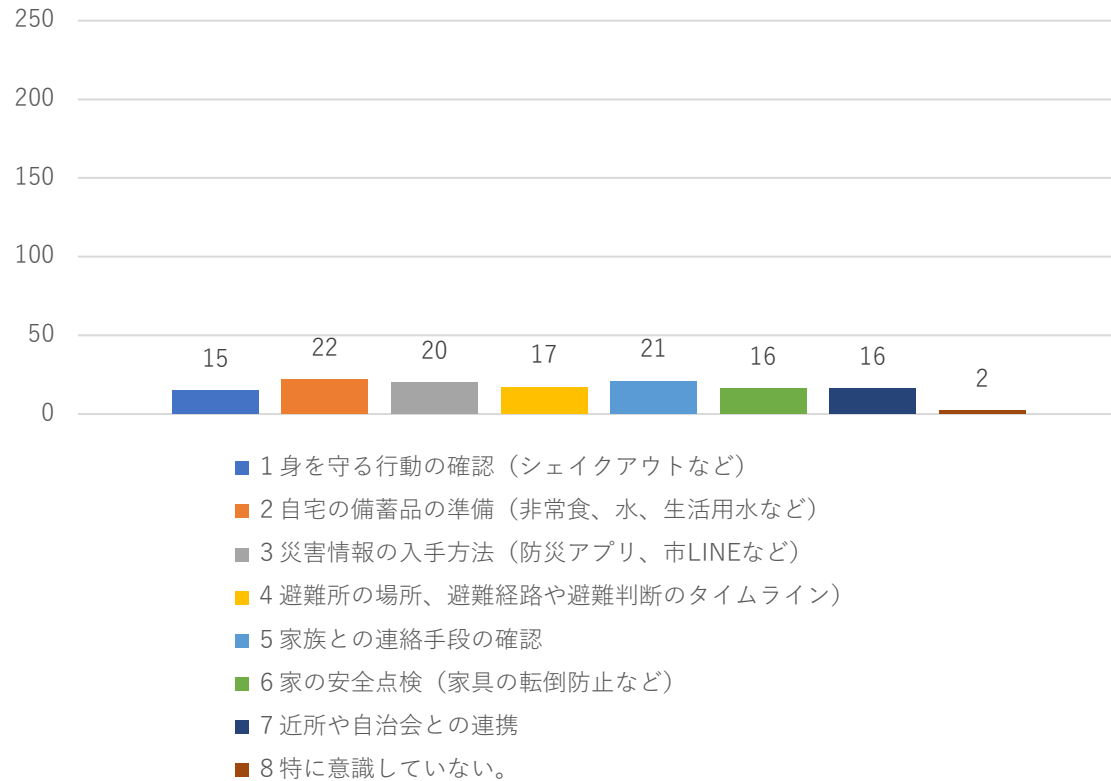


●アンケート回答者の74%が「知らない」 (25人) と回答されました。

※「デジタル避難訓練」とは、LINEの画面上で地震発生時にとるべき防災行動や情報収集の仕方を学べる避難体験コンテンツです。

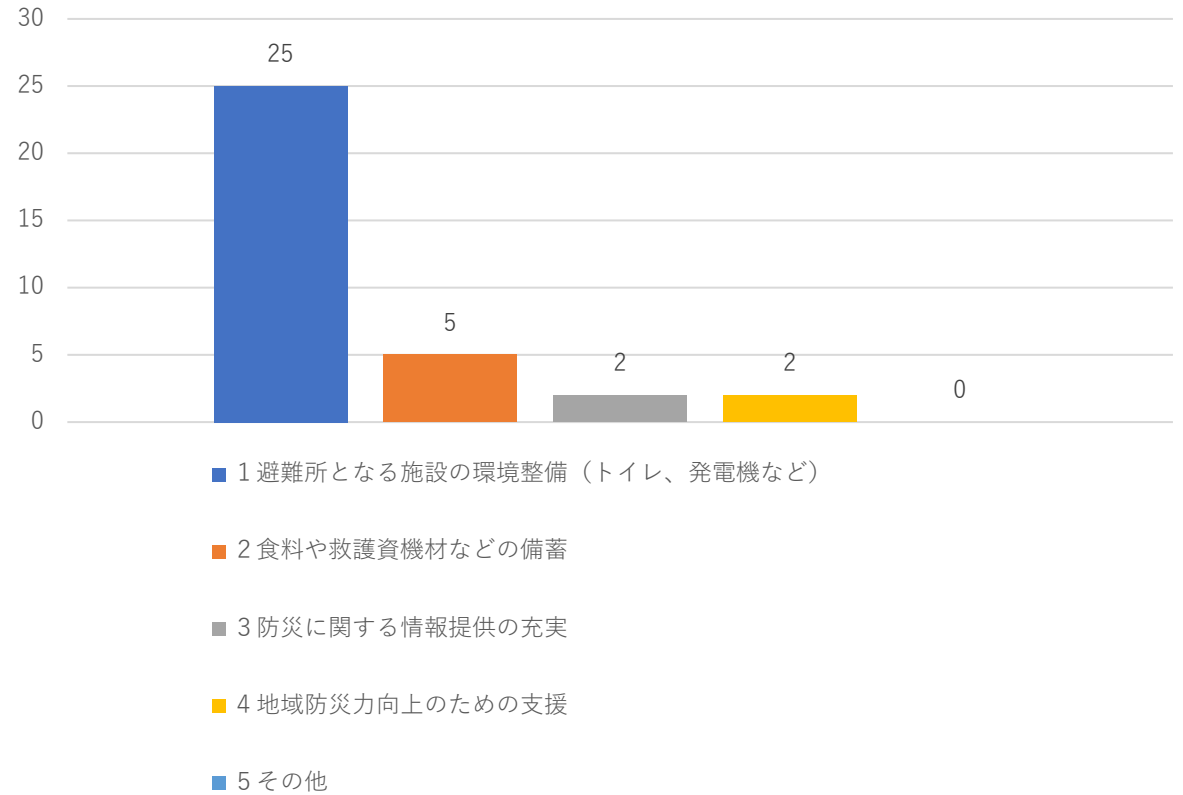
三和地区防災訓練アンケート集計結果

災害に備えて、普段から意識していることは何ですか？（複数回答可）



●災害に備えて「自宅の備蓄品の準備」（22人）、「家族との連絡手段の確認」（21人）、「災害情報の入手方法」（20人）が意識されている項目となりました。

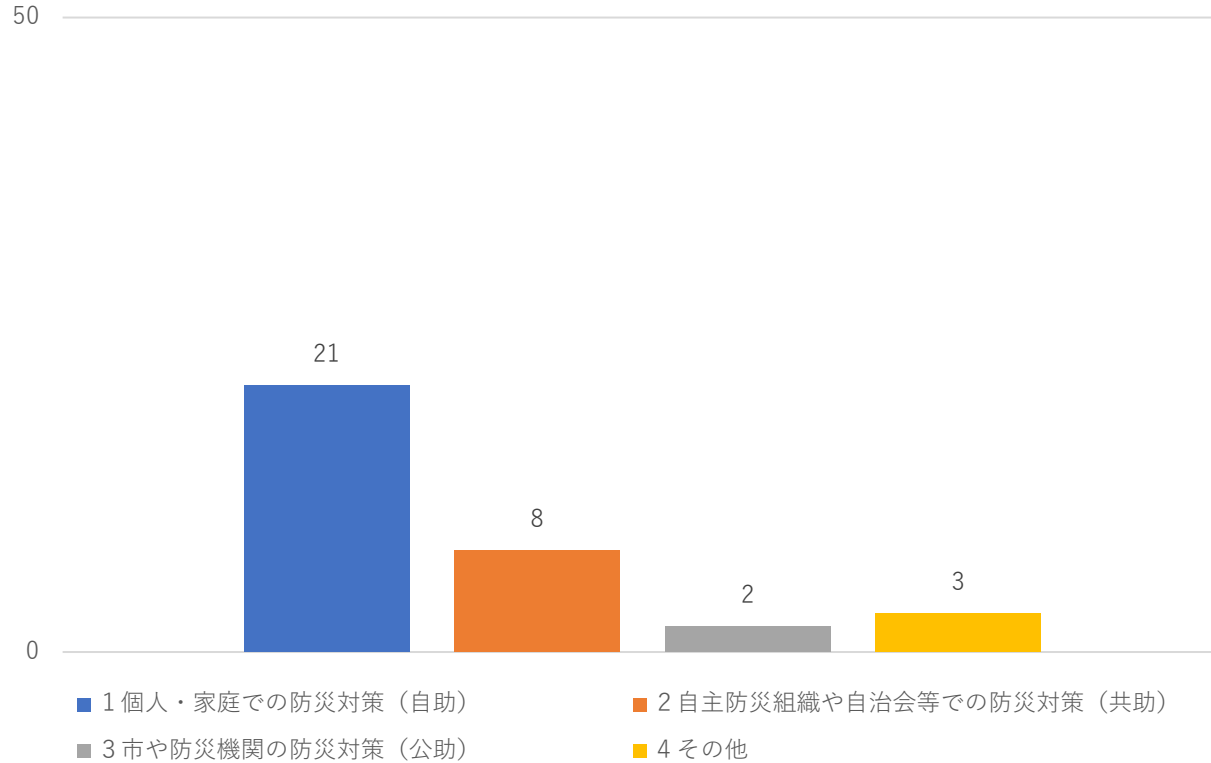
防災に関して市に力を入れて取り組んで欲しいことは何ですか？



●アンケート結果では、「避難所となる施設の環境整備」（25人）が最も多く選ばれ、「食料や救護資機材などの備蓄」（5人）が次に続きました。

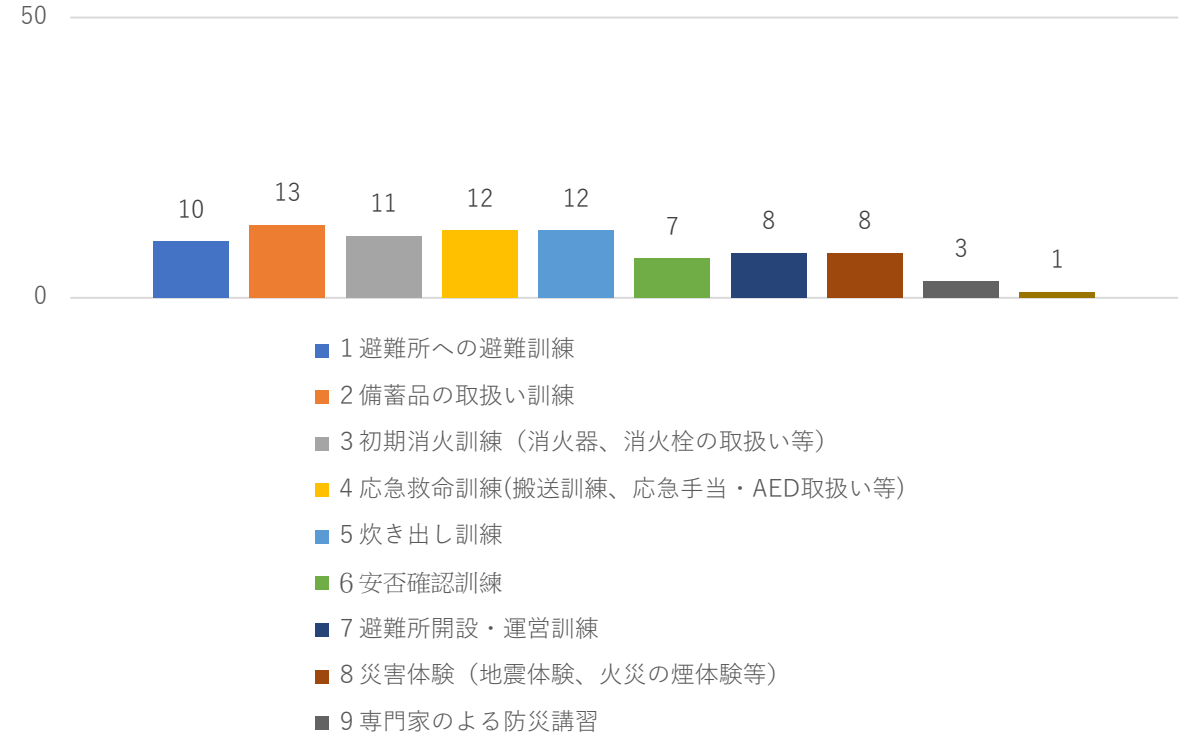
三和地区防災訓練アンケート集計結果

防災意識を高めるために、今後最も力を入れるべきことは何だと思いますか？



●アンケート結果によると、「個人・家庭での防災対策（自助）」（21人）が最も支持されました。次いで「自主防災組織や自治会等での防災対策（共助）」（8人）、「その他」（3人）となっています。

今後実施したい訓練は何ですか？（複数回答可）



●今後、実施を希望する訓練で最も関心が高いのは「備品等の取扱い訓練」（13人）で、次いで「応急救命訓練」・「炊き出し訓練」（各12人）となっています。また、「初期消火訓練」（11人）や「避難所への避難訓練」（10人）への関心も見られました。

下米田地区

参加者総数

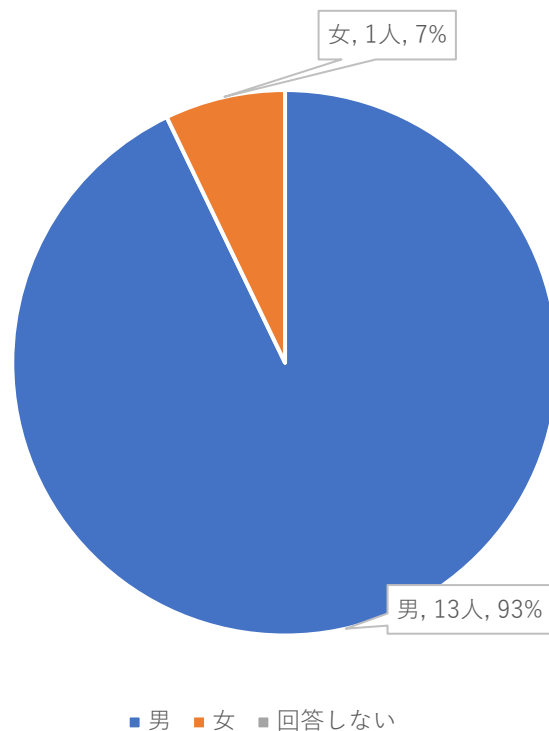
一 次 訓 練：1,223人

二 次 訓 練： 154人

アンケート回答者総数： 14人

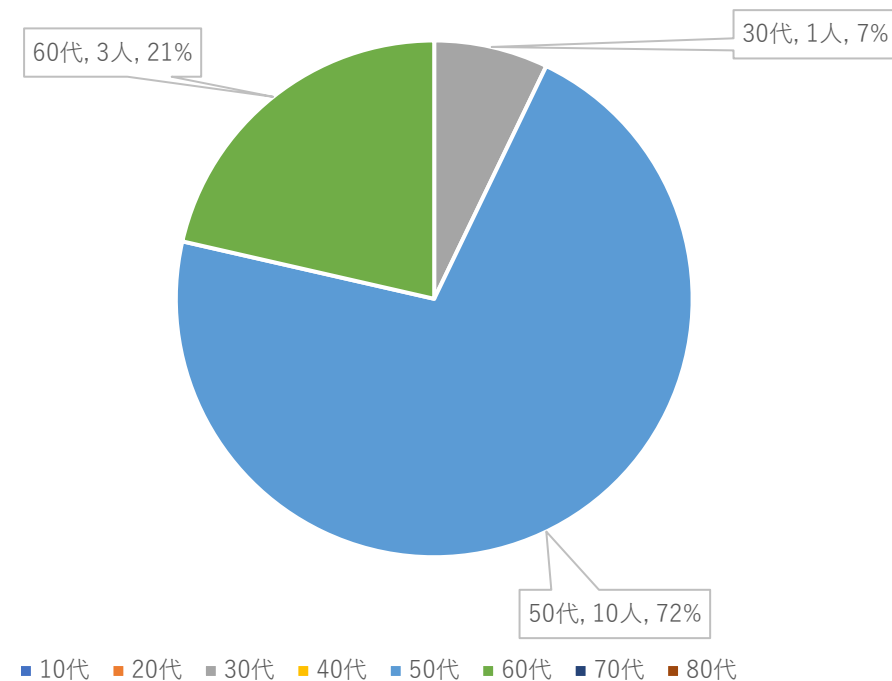
下米田地区防災訓練アンケート集計結果

アンケート回答者の性別別



●性別別の回答人数は、「男性」13人、「女性」1人となっています。

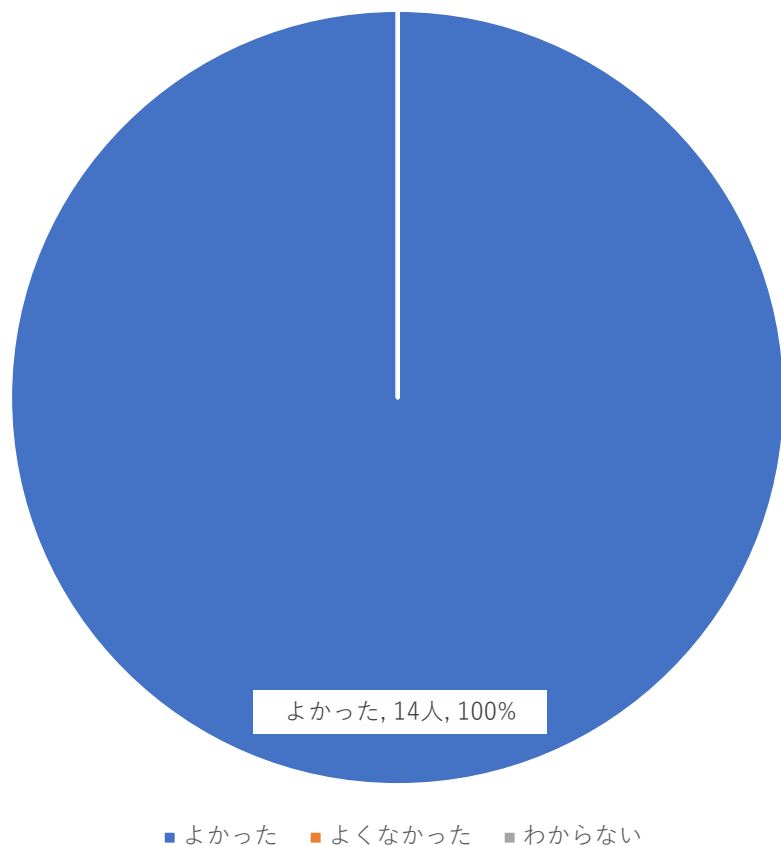
アンケート回答者の年齢別



●年齢別の回答人数は多い順に50歳代10人、60歳代3人、30歳代1人の順となっています。

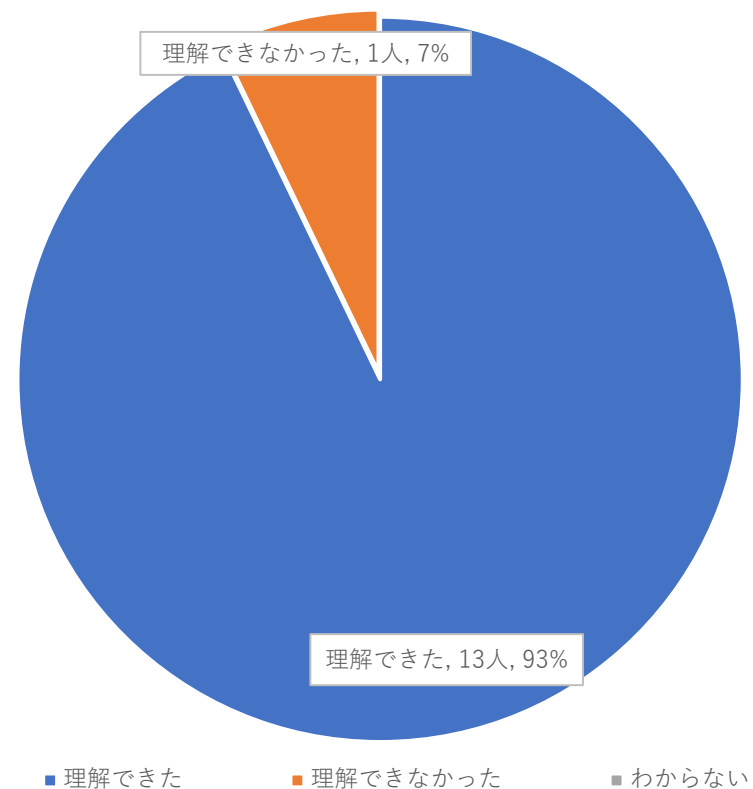
下米田地区防災訓練アンケート集計結果

本日の訓練について



●全回答者が「よかった」（14人）と回答されました。

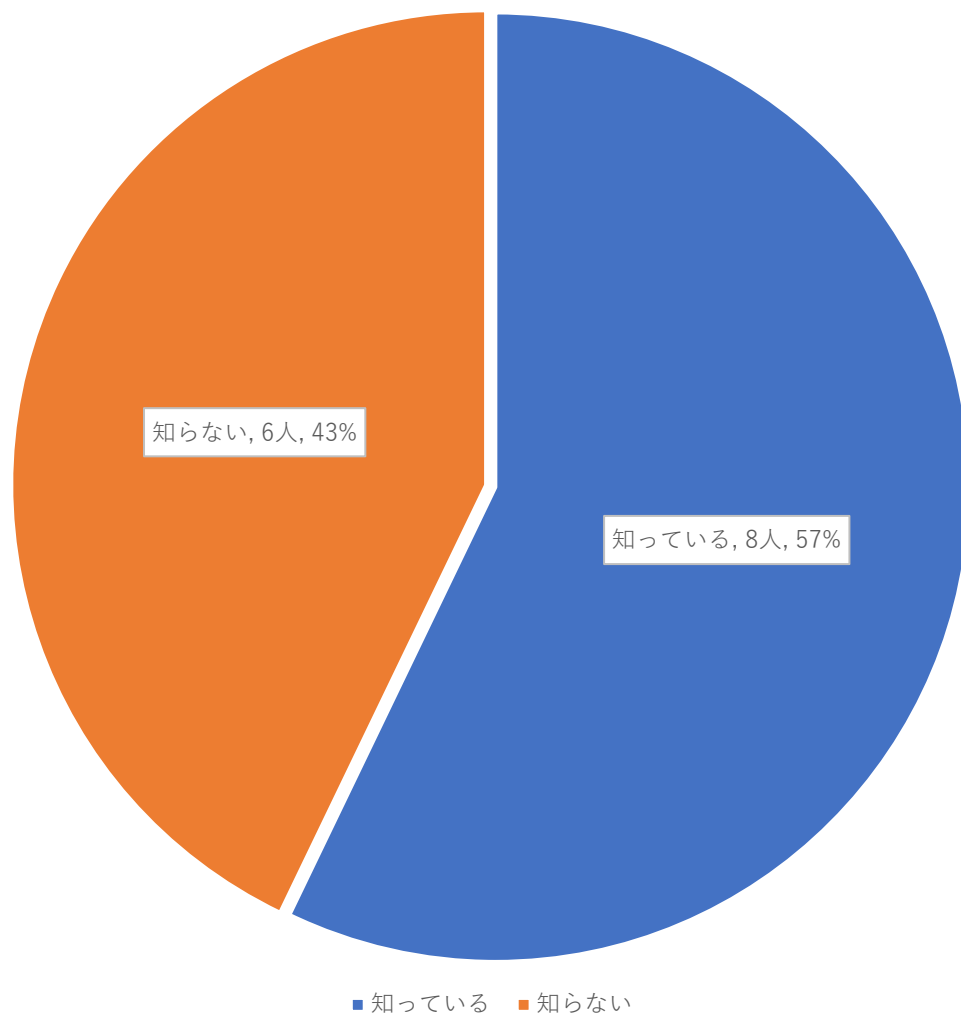
DVD「発災後の生活環境を考える」について



●レスキューストックヤード常務理事の浦野愛氏によるDVD「発災後の生活環境を考える」については、アンケート回答者の93%が「理解できた」（13人）と回答されました。

下米田地区防災訓練アンケート集計結果

市公式LINEにて体験できる「デジタル避難訓練」を知っていますか。

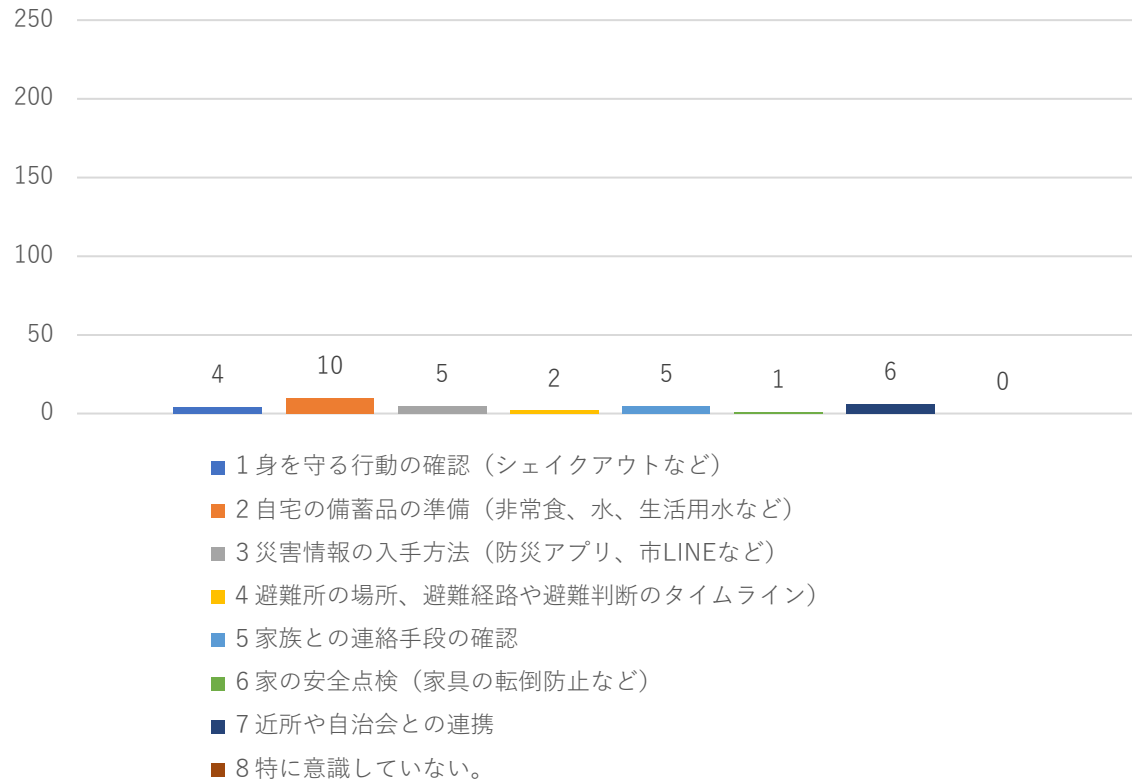


●アンケート回答者の57%が「知っている」（8人）と回答されました。

※「デジタル避難訓練」とは、LINEの画面上で地震発生時にとるべき防災行動や情報収集の仕方を学べる避難体験コンテンツです。

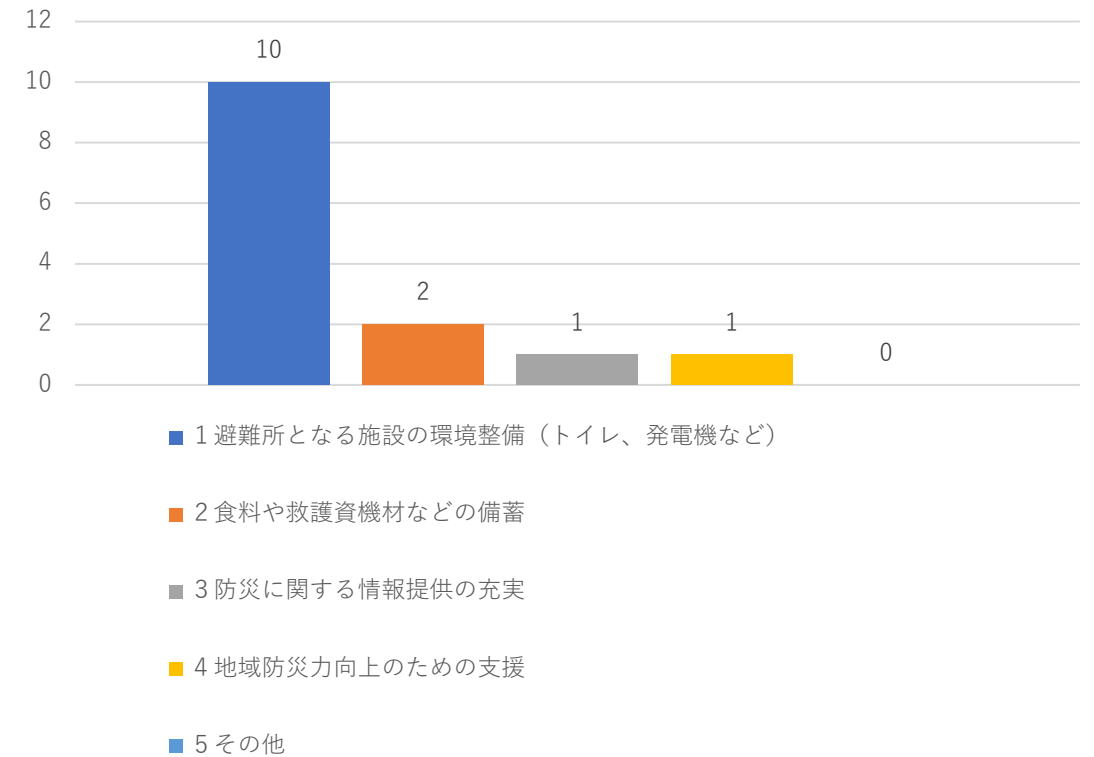
下米田地区防災訓練アンケート集計結果

災害に備えて、普段から意識していることは何ですか？（複数回答可）



●災害に備えて「自宅の備蓄品の準備」（10人）、「近所や自治会との連携」（6人）が意識されている項目となりました。

防災に関して市に力を入れて取り組んで欲しいことは何ですか？

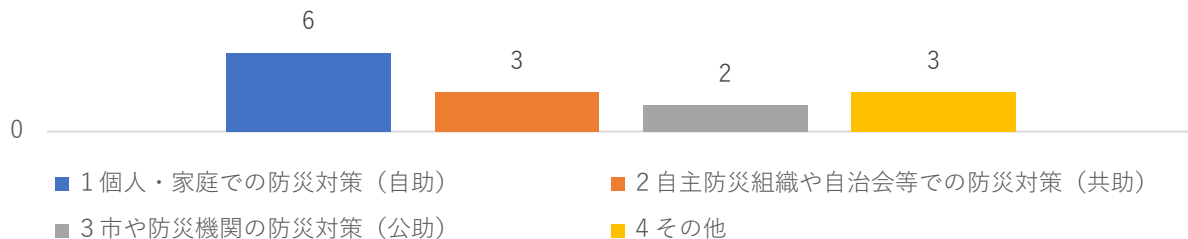


●アンケート結果では、「避難所となる施設の環境整備」（10人）が最も多く選ばれ、「食料や救護資機材などの備蓄」（2人）が次に続きました。

下米田地区防災訓練アンケート集計結果

防災意識を高めるために、今後最も力を入れるべきことは何だと思いますか？

50



●アンケート結果によると、「個人・家庭での防災対策（自助）」（6人）が最も支持されました。次いで「自主防災組織や自治会等での防災対策（共助）」・「その他」（各3人）となっています。

今後実施したい訓練は何ですか？（複数回答可）

50



●今後、実施を希望する訓練で最も関心が高いのは「炊き出し訓練」（4人）で、次いで「避難所への避難訓練」（3人）となっています。また、「備蓄品の取扱い訓練」や「災害体験」（各2人）への関心も見られました。